

平成 28(2016)年度

大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

目 次

大阪府高等学校視聴覚教育研究会事業報告	2
大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員、異動ならびに会員消息	3
<研修会・講座・講習会>	
C A I 講習会	4
施設設備見学会・放送クラブ指導者講習会	4
放送部顧問研修交流会	5
高校生のための放送技術講座	
平成 2 8 年度 高校生のための放送技術講座 (I)	8
高校生のための放送技術講座 (II)	19
高校生のための放送技術講座 (III)	14
高校生のための放送技術講座 (IV)	16
<放送コンテスト関係>	
第 6 3 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト大阪大会	18
審査員及び運営スタッフ	18
大阪大会参加状況一覧	20
大阪大会決勝および全国大会結果一覧	22
第 6 3 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト全国大会	25
生徒参加体験記 寺澤 穂乃香 (大阪府立豊中高等学校)	26
小林 咲希 (大阪府立渋谷高等学校)	27
浦嶋 克彰 (大阪夕陽丘学園高等学校)	28
<芸術文化祭関係>	
第37回大阪府高等学校芸術文化祭放送文化部門	29
第40回全国高等学校総合文化祭(広島大会)放送部門	30
第36回近畿高等学校総合文化祭(兵庫大会)放送部門	31
<資料編>	
高校生のための放送技術講座アンケート	32
コンテスト大阪大会決勝 審査委員長講評	44
公式サイト等のご紹介	50

大阪府高等学校視聴覚教育研究会 平成29年度事業報告

(1) 総会及び研修会

①総会

平成28年5月18日(水) 大阪市立中央高等学校

②CAI研修会

平成28年7月29日(水) 日本写真映像専門学校

③視聴覚施設設備見学会

平成29年1月20日(金) **NHK**大阪放送局

(2) 講座及び講習会

①高校生のための放送技術講座

第1回 平成28年 5月 8日(日) 大阪府立箕面高等学校

第2回 平成28年11月 6日(日) ドーンセンター

第3回 平成29年 1月29日(日) 大阪府立洪谷高等学校

第4回 平成29年 3月26日(日) 大阪府立金剛高等学校

②放送クラブ顧問交流会

平成28年11月 6日(日) ドーンセンター

③放送クラブ指導者講習会

平成29年 1月20日(水) **NHK**大阪放送局

(3) 放送コンテスト関係

第63回 **NHK**杯全国高校放送コンテスト大阪大会

平成28年6月 5日(日) 予選 大阪夕陽丘学園高等学校

平成28年6月19日(日) 決勝 大阪市立青少年センター

関 連 行 事

(1) 大会及び研修会

①平成28年度近畿放送教育研究協議会夏期特別研修会

平成28年 8月 8日(金) 和歌山市

②第20回視聴覚教育総合全国大会・第67回放送教育研究会全国大会

平成28年11月18日(金)～19日(土) 東京オリンピックセンター

③第65回近畿放送教育研究大会和歌山大会

平成28年11月25日(金) 和歌山県民文化会館、星林高等学校

(2) 第63回全国高校放送コンテスト全国大会

平成28年7月26日(火)～28日(木) オリンピックセンター、**NHK**ホール

(3) 芸術文化連盟関係

①第40回全国高等学校総合文化祭放送文化部門

平成28年 8月 2日(火)～8月 3日(水) 広島市広島国際会議場

②第36回近畿高等学校総合文化祭放送部門

平成28年11月23日(水) 神戸市国際会議場

③第37回大阪府高等学校芸術文化祭放送文化部門

平成28年11月 6日(日) ドーンセンター

事業成果報告

- (1) 平成28年度「大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み」は
大阪高視研ホームページ (<http://www.kousiken.jp>) にて報告

大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員

会長	岩崎 判二 (府立桃谷高校長)	監査	杉野 正 (府立芦間高)
副会長	村田 徹 (府立高津高校長)	同	山内 孝子 (市立生野工業高)
同	森 知史 (市立咲くやこの花高校長)	同	大西 篤史 (相愛高)
同	安井 大悟 (相愛高校長)	書記	緒方 稔 (府立桃谷高)
		同	河合 功 (市立東高)
		同	山中 華 (箕面自由学園高)
		会計	久下 哲也 (府立布施高)
		同	土橋 愛 (市立咲くやこの花高)
		同	藤田 大輔 (阪南大学高)

役員異動ならびに会員消息 (平成29年4月1日現在)

岩崎 判二 (大阪府立桃谷高校長) ……………府立泉北高校へ
田名瀬 さゆり (大阪府立渋谷高校) ……………府立桜塚高校へ

<研修会・講座・講習会>

CAI講習会報告

研修部

1. 日時 平成28年7月29日(金) 13:30~16:00
2. 場所 日本写真映像専門学校(SHASEN)
3. 内容 パソコンによる映像編集実践講座
4. 講師 SHASEN映像クリエイション学科主任 鯖田 明 先生
5. 参加者 11校 11名 (支援学校から1名、定時制1名の参加も)

SHASEN・鯖田先生は、カラー絵コンテ入りのオリジナル・テキストを制作して下さり、自校「弾着アクションセミナー」映像を実践的に編集。先生方も熱心に参加していただきました。鯖田先生は「次年度もぜひやりたい」との意欲を示して下さい、楽しみです。

SHASENのみなさま、ありがとうございました。

(大阪府立桃谷高等学校・通信制 緒方 稔)

施設設備見学会

放送クラブ指導者講習会

日時 平成28年1月20日(金) 15:00~17:30

場所 **NHK**大阪放送局

内容 「FMシアター」ラジオドラマ生音作業実演見学。制作者への質疑応答。難波宮地下遺構の見学。
放送部顧問意見交換・講習会

参加者 9校 10名

NHK大阪・広報部・永野真由美さんと、「FMシアター」スタッフの格別のご配慮で2月4日FMでON・AIR予定のラジオドラマ「父が還る日」の生音作業(録音されたセリフに合わせてSEをスタジオで作ってミキシングする)を見学させていただきました。現場スタッフの妥協を許さぬディーテールまでこだわった音作りが、ドラマを引き立てていました。質疑では、「細かい音を拾うにはコンデンサーマイクがいい」「ガヤを録るならステレオ・マイク」「ラジオドラマの演技は、“シナリオを読まないで、自分で考えてしゃべって下さい」と声優さんにはお願いします」といった回答をいただきました。

難波宮地下遺構も、広報部・永野さんが専門的にくわしく解説してくれました。

放送クラブ指導者講習会では、各校の情報交換、アドバイス、今後の企画協力など、有意義な機会を活用しました。

NHK「FMシアター」スタッフのみなさん、広報部・永野さん、ありがとうございました。「ラジオドラマ人気が下火になっている今、高校生や先生がラジオドラマを応援してくれるのはありがたい」とのお言葉をいただきました。また新企画を考え、**NHK**放送コンテストにラジオドラマをたくさん制作ませう!

(大阪府立桃谷高等学校・通信制 緒方 稔)

放送顧問研修交流会

放送コンテスト委員会

この会は、2012年度から実施しており、NHK杯全国高校放送コンテストにおける指導方法から日常の部活動について、あまり交流の機会のない他校の顧問の先生方とさまざまな点で情報交換をし、お互いに研鑽を深める目的で企画しているものです。

今年度は、「高校生のための放送技術講座」(ⅠおよびⅡ)と同日に開催しました。

第1回<高校生のための放送技術講座(Ⅰ)>と併催>

日時：平成28(2016)年5月8日(日) 10:15~12:00

会場：大阪府立箕面高等学校

参加：40人

講師 田名瀬 さゆり 先生(大阪府立渋谷高等学校教諭 高視研役員)

講師 秋本 みゆき 先生(大阪市立南高等学校教諭 高視研役員)

講師 小畑 敦彦 先生(大阪府立金剛高等学校首席 高視研役員)

ほとんどの顧問の先生が参加してくださいました。

63回大会の概要・変更点、審査についての説明の後、模擬審査をしていただきました。

模擬審査の後、グループごとに分かれて、討議をしましたが、これが大変好評でした。(もっとこういう時間をとってほしいという声もありました)「6月のコンテストの前に、こういう機会を入れていただいて大変良かった」「クラブ員の指導にも参考になった」などの感想を寄せていただきました。

小畑先生には、作品作りに欠かせない、著作権関係の説明をしていただきました。

コンテスト委員会としては、顧問の先生方の技量を上げることができ、6月のコンテストの審査に役立つことが、一番ありがたいことです。

第2回<高校生のための放送技術講座(Ⅱ)>併催>

日時：平成28(2016)年11月6日(日) 14:45~15:45

会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)小会議室

内容：

<アナウンス>進行&助言…田名瀬先生(渋谷) 参加10人

§ 自己紹介(知りたいことや課題)

- ◇ 成美・西久保先生/指導方法が知りたい。
- ◇ 市立南・松井先生/今年から顧問なので何もわからない。
- ◇ 開明・藤澤先生/顧問2年目/今までは音楽をやってきたので放送についてはわからないが、アナウンスは面白そう。

- ◇ 芦間・梅原先生／今年から顧問／キチンと練習していないが、ラジドラは少し作っている。
- ◇ 帝塚山・谷先生／顧問5年目／以前は校内放送できなかったが、ようやくできるようになったので、校内放送についてわかってきた。
- ◇ 宣真・清水先生／アナウンス原稿の作り方や発声練習の方法について知りたい。
- ◇ 信愛・島先生／コンテストでは予選落ち。指導力を上げるにはどうすればよいかを知りたい。
- ◇ 芥川・大島先生／顧問2年目／部員は少数。興味はあるがとても他校のようににはできない。指導法が知りたい。
- ◇ 近大附属・平野／顧問2年目／指導を入れるとすぐにしよげる部員ばかり。そんな生徒の芯を強くする方法を知りたい。

§ 校内放送の実際

◇ 成美

校内ニュース、○×ランキング、生徒の聞きたい話題、教員ネタ

◇ 渋谷

最盛期は火～金に放送。音楽なし。取材でとってきたネタを放送枠、原則5分以内。

1分ネタを何本か集める形。

お知らせを最初に入れて、後は取材モノ。

取材は大変だが、校内が盛り上がる。

「放送部に取材されるように頑張れ」が各クラブの合言葉となる。

春には卒業生を取材して何本か放送。進路を考える3年生の啓発にもなる。

取材の現場音はクリアであれば使うが、基本的にはすべてを原稿化して伝える。

これは岩手の菊地先生仕込み。

§ 原稿の作り方

コンテスト用原稿（校内ニュース）は生徒に考えさせる。

ネタ集めに苦心する。みんなが知らない情報でないと価値はない。

取材は大変だが、それに食らいつく部員しか残さない。

例えば、ある部活が試合に負けたニュースなら、負けた「内容」が大事。

取材対象者の「思い」の入っていない原稿はダメ。

生徒の作った原稿は、顧問は原稿の文字を読むのではなく、生徒が原稿を読む音声で

チェックする。その方がよりシビアな批評ができる。

内容についての質問に答えられなければ、その生徒には再取材に行かせる。

当たり前の情報は要らない。

聞く人の頭の中に情景が浮かぶように原稿を作らせる。

コンテスト前はテイク25まではいく。

新しい人に読みを聞いてもらう。

おもしろいかおもしろくないか、熱いか熱くないかがポイント。体育会系教員のチェックも有効。一般リスナーの耳でチェックしてもらう。

6月のNHK杯に出すアナウンス原稿の時期のズレはどうか。

いくら何でも6月にクリスマスはおかしい。

毎日の昼放送が本番なら何の問題もない。

§ 日々の指導法

取材が命なので、全員揃って発声練習する必要はない。

新入部員にはロングトーンその他を課す。

大阪芸術大学で、狂言師が腰を落として声を出し続ける様子に触れた。

芯を作るには、走り込みや筋トレ、腹筋などで体作り → 息が最後まで持つ

大声は要らない。滑舌は役に立つ。プロミネンスやうねり防止。

NHKラジオの「列島リレーニュース」でシャドーイング。全国大会CDも有効。

12月の指導者講習会（東京）や他府県講習会に参加。他校と繋がる。

NHKの教員向け講座（話す、読む、スピーチ）は、大阪では盆の時期に開講。

地域のイベントなどに関わり、地域と結びつく。インターハイや高校野球の開会式・閉会式の司会にも関わる。

部活動中は共通語で話す習慣。これは演劇でも当たり前。

<朗読> 進行&助言…秋本先生(市立南) 参加9人

山本先生(浪速)・戸野先生(槻の木)・竹中先生(相愛)・南川先生(豊中)・荒木先生(旭)・

池田先生(梅花)・渡上先生(近大附属)・崎中先生(相生中)・NHK放送コンテスト中学校の部委員長)

話し合った内容

「現在の部活動の状況」「練習方法の情報交換」「現在、困っていること」を中心に話し合った。

「参加者が順番に発言し、それに対する意見を他の先生方が言う」という形式で意見交換を行った。その中で、「朗読分野では、何を重視すべきか」という本質的なことにも話題が及んだ。

合同練習会を開くことで、生徒たちも先生たちも、もっと具体的に情報交換していけるのではないかと
いう意見も多く出た。

中学校の先生にも参加していただいたので、「中学校とタイアップすることで、将来的に、大阪の高校の放送レベルを上げていけるのではないかと」も考えている。

高校生のための放送技術講座 報告

放送コンテスト委員会

1. 高校生のための放送技術講座 (I)

(1) 概要

- ① 実施日時：平成28（2016）年5月8日（日） 9：45～16：00
- ② 会場：大阪府立箕面高等学校
- ③ 参加校・参加者・実施場所
28年度：39校 209人（実施場所：箕面高校）
27年度：35校 204人（実施場所：ビジュアルアーツ専門学校：定員オーバーのため、
26年度：39校 217人（実施場所：ビジュアルアーツ専門学校） 4校をお断りしています）
25年度：34校 175人
24年度：43校 166人
23年度：37校 191人

今年度は、府立枚方津田高校や、府立狭山高校など初参加の学校があり、嬉しかったです。

- ④ 内容：6月に行われる第63回 **NHK**杯全国高校放送コンテスト大阪大会に向けての講座
- ⑤ 参加費：一人あたり100円を当日徴収しました。
- ⑥ 時程：9：45～10：00 午前の部受付
10：00～10：15 開会式・諸注意・連絡
10：15～12：00 放送技術講座
(1) アナウンス・朗読のためのトレーニング基礎講座
(2) ラジオ番組制作講座 (3) 顧問交流会 模擬審査
12：00～12：50 昼休み・午後の部受付
12：50～13：00 開会式・諸注意・連絡
13：00～16：00 放送技術講座
(1)アナウンス講座 (2)朗読講座

(2) 午前 技術講座

- ① アナウンス・朗読のためのトレーニング基礎講座（食堂で実施）参加者103人
講師 安田 知博 先生（フリーアナウンサー・高校放送部インストラクター）
高校時代、**NHK**杯全国高校放送コンテストアナウンス・朗読で3年連続優勝し、現在は**NHK**
Eテレ「バリバラ」で副音声の解説放送を担当。全国20の府県で、高校放送部の指導やコンテ
ストの審査に携わっておられます。

この基礎講座では、新入部員を優先して、各校3人までという制限をかけて参加してもらいました。
内容は、放送部員としての自覚を深めるとともに声で伝えるために必要な基礎技術を確認し、短文を使

った音読練習、マイクの使い方、簡単な原稿作成などを行いました。アシスタントに、大阪のコンテストで活躍した卒業生5人（北本君はSTBのアナウンサーとして就職が決まったそうです）を含む12人が来てくれました。

② ラジオ番組制作講座 参加者 57人 (視聴覚教室で実施)

講師 緒方 稔 先生 (大阪府立桃谷高等学校教諭 高視研役員)

講師 久下 哲也 先生 (大阪府立布施高等学校教諭 高視研役員)

大阪のラジオ番組と言えば、このお二人です。毎年多数の応募のあるラジオ番組ですが、その製作のノウハウから、決勝に残るための秘訣(?)まで、解説していただきました。作品の持ち込みは3点だけでしたが、去年の決勝の作品を聞いて「この部分が足りない」「この部分があれば…」という話をしてくださいました。生徒達はノートをとりながら熱心に聞いていました。例年なら、コンテストが終わってからする話を、コンテストを前にしてしまったような感じです。講師の先生は、「現時点で80点の作品はなかったが、全体のレベルは上がった。今年は良くなるかなあ」と期待しておられました。

③ 顧問交流会 模擬審査 参加者 40人 (社会科教室で実施) →顧問研修交流会(p.5)で報告

(3) 午後 技術講座

① アナウンス講座 参加者 74人

講師 安田 知博 先生 (フリーアナウンサー・高校放送部インストラクター)

「放送部とはどんな部活動なのか?」という問いかけから、放送とは、作る人のためではなく、受け取る人のためにあるもの。だから、どんなに一生懸命作っても、届かない放送は送りっぱなしになってしまう。「放送コンテストとは何か?」日ごろの校内放送活動の成果をあらわすもの。など、放送部員としての、心構えのお話のあと、放送原稿の書き方、留意点などの説明とそれを踏まえての実践練習をしました。コンテストのアナウンス部門に出場する人対象にガイダンスの後、数名の公開レッスンをを行い、自分の原稿を持ってきている人は原稿の書き方から指導していただきました。高視研の役員の先生方や、学生アシスタントもはいて、一人ひとりに細かい指導をしていただきました。

② 朗読講座 参加者 105人

講師 中村 宏 先生 (元NHK大阪放送局アナウンサー)

1977年入局。現在は、関西発ラジオ深夜便(NHK第一 後11:15~前5:00)

1・3週金曜日担当。アンカー6年目です。ここ数年大阪のコンテストでは、審査や技術講座ですっかり御世話になっています。

講座では、最初に中村先生のガイダンスの後、希望者11人の個人指導をしていただきました。

レベルの非常に違う生徒一人ひとりに対して、適切で丁寧な指導をしていただきました。中村先生の指導で、みるみる上達していく生徒たちを目の当たりにして、特に「顧問にとって」勉強になる講座だと実感しました。

(4) 全体を通して：

- ・会場の確保がますます難しくなっています（今回もビジュアルアーツが予約していたにもかかわらず直前にキャンセルになって、急きょ箕面高校になりました）。そのため、役員のいる高校等を会場として使わざるを得なくなり、どうしても交通の便が悪くなって、参加しづらい状況が出てきています。
- ・「新しく顧問になった先生むけに、もっと初歩的な、初回講座を開設してはどうか。」「はじめて放送部顧問になった先生にとって、今の開設講座は難しすぎて、あまり役に立っていないように思われる」というような指摘が出てきました。生徒を育てることも大切ですが、生徒を育ててもせいぜい数年です。一方、若い顧問の先生を育てれば、20年～30年は活躍していただけます。今、世代交代の時を迎えて、顧問を育てることの重要性を痛感しています。
- ・放送技術講座を年4回実施するようになって満6年。2カ月に一回は何らかの行事があつて、それに向けて準備をすることで放送部活動のリズムが作りやすくなるというタイムスケジュールも、定着してきたように思います。新しい高視研のメンバーのもと、新しい視点で、ますますの発展を祈念いたします。

(大阪府立箕面高等学校 加藤 奈穂)

2. 高校生のための放送技術講座（Ⅱ）

参加申込：27校171人

過去5年の推移

実施年度	参加校(校)	参加者(名)
平成28(2016)年	27	171
平成27(2015)年	30	171
平成26(2014)年	26	160
平成25(2013)年	28	148
平成24(2012)年	21	111
平成23(2011)年	19	110

日時：平成28(2016)年11月6日(日) 10:00～16:30

会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

特別講義室・視聴覚教室・セミナー室1・セミナー室2・小会議室

日程： 9:30～10:00 受付
10:00～10:20 開会式・諸注意・連絡
10:20～12:00 1年生アナウンス大会
12:45～13:15 午後受付
13:10～13:30 全国大会出場生徒代表による報告
13:30～13:40 午後の部開会式
13:45～15:45 技術講座（アナウンス・朗読・番組製作）
(14:45～15:45 顧問交流会（アナウンス・朗読）)
16:00～16:30 閉会式・1年生アナウンス大会結果発表

内容：

○1年生アナウンス大会

- ・参加 22校、72人（申込84人、12人欠席） ・2会場で審査

実施年度	参加校（校）	参加者（名）
平成28(2016)年	22	72
平成27(2015)年	22	68
平成26(2014)年	19	73
平成25(2013)年	17	82
平成24(2012)年	19	61

- ・大阪府下の高校第一学年に在籍する生徒なら誰でも参加可能（NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会のアナウンス・朗読部門の入賞者（全国大会出場者）も参加可能）
- ・評価 各会場5人の審査員が100点満点で採点した上で、規定違反（原稿通り読めていない等）の大きなものについて減点した。その得点を基準として、各会場上位5位をA評価とし、優秀賞とした。（A会場は同点の関係でA評価が6人いる）。続く25人をB評価、それ以下の5人をC評価としている。結果及び講評は高視研ホームページ上に発表した。講評は、個人名は出さず、各会場の審査番号順に掲載している。
- ・審査員 A会場 鎌田 潤 先生（元コンテスト委員長）
秋本みゆき 先生（大阪市立南高等学校）
坂尾 麗子 先生（大阪府立旭高等学校）
竹中 泰子 先生（相愛高等学校）
西川 和希 先生（浪速高等学校）
- B会場 平野 賢一 先生（近畿大学附属高等学校・高視研役員）
谷 典子 先生（帝塚山学院高等学校・高視研役員）
西久保春海 先生（大阪府立成美高等学校）
長谷 智美 先生（聖母被昇天学院高等学校）
安田 知博 先生（放送部インストラクター・フリーアナウンサー）

優秀賞（A評価）とされた11人（発表順）

A会場	大阪市立南	山口 美 咲	女
	東海大仰星	重 枝 希 呼	女
	夕陽丘学園	山 村 佳奈江	女
	四天王寺	田 中 優 花	女
	四天王寺	杉 原 真 衣	女
	浪速	木 下 慧 斗	男
B会場	桃山学院	上 田 龍 二	男
	大阪市立南	山 手 亜弥音	女
	関西大倉	中 崎 菜 緒	女
	東海大仰星	荒 木 悠 里	女
	聖母被昇天学院	平 岩 佐和子	女

○全国大会代表者報告

司 会：小林咲希（渋谷）

アナウンス：寺澤穂乃香（豊中）、幸田侑希（市立南）

朗 読：小林瑞季（市立南）

番組制作：真鍋恵（金剛）

研究発表：鬼頭永真（夕陽丘学園）

課題：後輩に伝えることをあらかじめまとめるべき。

リハーサルも必要だった。照れ笑いなどはマイクを持つと必要ない。

全国大会そのものを伝える必要あり、思いが多くわかりにくい。

○アナウンス講座

参加：58人（昨年度71人）

講師：安田 知博 先生（放送部インストラクター・フリーアナウンサー）

アシスタントに全国大会出場の3年生2人

内容：「音読の基礎練習・アナウンスの実践練習」のプリントを使い基本について30分講義した後、公開個人指導を10人行った。また、最後の30分は自由練習で会場係の久下先生や手伝いの3年生2人も読みのアドバイスをを行った。公開レッスンについて、生徒たちはメモを取るなど積極的に聞いていたとのご意見もあったが、反面、公開レッスンの内容を自分のこととして引きつけて考えるのが難しい生徒が多い、とのご指摘もあった。

○朗読講座

参加：67人（昨年度52人）

講師：中村 宏 先生（元NHK大阪放送局アナウンサー）

内容：「朗読のポイント・読む&話す」のプリントを使い、基本について30分講義した後、一人当たり10分間8人の公開個人指導を行った。教材として、今年度のNHK杯全国大会の朗読部門決勝進出者の抽出原稿を使用した。生徒は公開クリニックを希望する傾向にあるが、ただ聞いているだけの生徒が多いのは効果があるのかどうか悩ましいところである、とのご意見がある。

○番組制作講座

参加：46人（昨年度44人）

講師：大阪芸術大学放送学科2回生3人

栗田 雄一さん、宮本 望さん、大橋 優香さん

内容：3人がそれぞれの分野について、大学の講義で出てきた話や、高校時代の作品について、受講者の質問に答えながら進めていった。

1. 「このネタはなぜラジオでするのか？」これを考えてほしい。

ラジオは音だけで表現する。「想像してもらえる」ところがよいところ。

2. 録音と編集

録音はマイクの特徴を考えること。編集で気をつけたいのは、「音の立体感」を出すこと。リスナーの立ち位置を考えよう。

3. 「(コンテストで) 勝ちやすい番組」とは

撮影手法、ネタなどブームを取り入れる。時事ネタを入れる。「笑い」ネタを入れる。

4. 「番組は一人歩きする」

手法を参考にされる。いいものは何度も聞かれる。

5. 脚本の作り方

身の回りの話が、ドラマのネタになる。

起承転結の役割を確認しよう。

起：物語の説明。人を引きつける大事な部分。ここだけが偶然を許される。

承：伝えたいことを提示する。

転：テーマを感じさせる。印象づける。

結：まとめ。印象づけられるように終わりたい。

箱書き：大箱小箱式。短くするなら、台詞を削り、辻褄をあわせる。

6. アイデアの出し方

ヒント法：日常生活をもとに考える。

下敷き法：かつての物語を利用する。

一行法：とりあえず一行書いてみる。

イメージキャスト法：タレントや有名人などでイメージを考える。

人物が生き活きしているとあきない。

シチュエーションシャッフル法：「駄菓子屋の店番」といえば、「おばあちゃん」というイメージだが、これが「お姉さん」なら何かあると考えてしまう。

7. 「究極のラジオドラマ」は電話でのやりとり

相手の顔は見えないし、言葉で伝えていくから。

8. 撮影時の注意「イマジナリーライン」を考えよう

人の立ち位置、映像ではこれを気にしないとイケない。

とても興味深い内容だった。「脚本の作り方」の話は初めてで、そのあとの「アイデアの出し方」も新鮮に感じた。

○顧問交流会 → 顧問研修交流会 (p. 5) で報告

3. 平成 27(2015)年度高校生のための放送技術講座 (Ⅲ)

参加申込： 19校 105 人 (アナ2年生大会 34人)

日時：平成 29 (2017) 年1月 29 日 (日) 10:00~16:30

会場：大阪府立渋谷高等学校 視聴覚教室

日程：09:30~10:00 受付 (午前の部) ※ アナウンス大会の原稿の提出も含む

10:00~10:20 開会式 (午前の部)

10:20~11:30 2年生アナウンス大会

11:30~11:50 新アクセント辞典の使い方

11:50~12:10 朗読抽出箇所について

12:45~13:00 受付 (午後の部のみ参加の学校)

13:00~16:00 アナウンス放送技術講座

16:00~16:30 閉会式 (大会結果発表・表彰)

内容：

○2年生アナウンス大会

・参加 16校 34人

・1会場で審査。

・評価 9人の審査員が100点満点で採点し、合計900点で評価した。

その上で、規定違反 (原稿通り読めていない、時間超過等) の大きなものについて減点した。

その得点を基準とし、上位8位をA評価 (優秀賞) とした。

続く 20 人をB評価、それ以外をC評価とした。

・審査員

加藤 奈穂 (府立箕面) / 谷 典子 (帝塚山学院) / 清水 明澄 (宣真)

長谷 智美 (聖母被昇天) / 浅田 裕子 (大阪市立南) / 阿部 守勝 (東海大仰星)

荒木 俊光 (府立旭) / 竹中 泰子 (相愛) / 西川 和希 (浪速)

・優秀賞 (A評価) とされた8人 (発表順)

学校	名 前
聖母被昇天学院	森 柚 香
プール学院	稲 田 緋 奈
府立旭	竹 尾 和 季
四天王寺	中 谷 有 里
宣真	高 橋 ちひろ
大阪市立南	幸 田 侑 希
相愛	松 本 夏 葵
府立箕面	朝 賀 しお莉

○新アクセント辞典の使い方

講師：内野洋子先生（プール学院放送部コーチ）

内容：プリントを使い、新アクセント辞典の使い方について例を示しながら解説した。

○朗読抽出箇所について

講師：鎌田 潤 先生（追手門学院大学）

内容：次回の **NHK** 杯放送コンテストの朗読課題5冊を示し、抽出箇所を選ぶ注意点など具体的に解説した。

○アナウンス講座

参加：104人

講師：平野 賢一 先生（近畿大学附属高等学校）

北本 隆雄 さん（立命館大学）

内容：二人のトークショーを聞いて取材し、1分程度の原稿を書いて発表する。

1. 原稿の作り方講座（10分）

北本さんの **NHK** 杯優秀賞原稿を例に原稿の構成と、作成に当たっての大切なポイントについて説明
誰に伝えるのか・何を伝えるのか・どんなニュースなのか（リード文の大切さ）

講師二人は自校の先生と卒業生の設定で書く。

2. トークショー（25分）

平野先生の局アナ時代の映像、北本さんの原稿読みの後、共通のキーワード・局アナ周辺の話聞く。

3. 取材（インタビュー）（30分）

何をニュースの核にするのかを決め、具体的エピソードや思いを引っ張り出す

4. 原稿作り（60分）

1分程度の原稿を書く。先生方や卒業生・3年生（田中・小林・寺澤）がアドバイスにまわる。

必要ならば追加取材も可。原稿は講座終了時に提出する。

5. 全体発表＋フィードバック（30分）

手を挙げた人が発表、取材された側からアドバイス。

6. 全体フィードバック（20分）

まわりの人に原稿を見てもらいアドバイスをもらう。

7. 終わりの挨拶（5分）

校内放送について伝えたいこと

原稿は提出し、講師が目を通してコメントし、各校へ返却する。

※この講座のさいに生徒・先生方に書いていただいたアンケートは、巻末〈資料編1〉にまとめました。

5, 平成28(2016)年度高校生のための放送技術講座(Ⅳ)

参加申込: 16校 105人

午前) 朗読大会 68人、番組講座α 20人

午後) アナウンス講座 25人、朗読講座 47人、番組β 31人

日時: 平成29年3月26日(日) 10:00~16:30

会場: 大阪府立金剛高等学校

日程: 9:30~10:00 午前の部受付 ※ 朗読発表大会の原稿の提出も含む
10:00~10:20 開会式・諸注意・連絡
10:20~12:30 朗読発表大会・放送技術講座(番組α)
13:00~13:15 午後の部受付
13:15~16:00 放送技術講座(アナウンス・朗読・番組β)
16:00~16:30 閉会式・表彰

内容:

【午前】○朗読発表大会

・参加68人 ・2会場で審査

・評価 各会場7人の審査員が100点満点で採点し、合計700点で評価しました。

その上で、規定違反(原稿通り読めていない、制限時間違反等)の大きなものについて減点しました。その得点を基準として、上位5位をA評価とし、優秀賞としました。続いてB評価、C評価としています。

・審査員 A会場 鎌田 潤(追手門学院大学)

山田 雅勇(四天王寺) 松井かをり(大阪市立南)

西川 和希(浪速) 佐分利義和(府立みどり清朋)

酒井 学(府立堺西) 廣津 麻美(大阪女子短大)

B会場 秋本みゆき(大阪市立南)

内野 洋子(プール学院) 榎並 徳次(大阪学芸)

久下 哲也(府立布施) 中井 勝久(大阪夕陽丘学園)

小野 和美(府立旭) 瓦林 朗(東海大学付属仰星)

・優秀賞(A評価)とされた10人(発表順)

大阪市立南 小林 瑞季 府立旭 竹尾 和季

プール学院 稲田 緋奈 四天王寺 廣田 梨奈

浪速 児玉 玲奈 帝塚山学院 稲田 優花

四天王寺 法師山 夏希 市立南 山口 美咲

桃山学院 松田 早紀子 四天王寺 中谷 有里

○番組α

参加 20人

講師 伴 慎一（府立今宮工科高校）・戸野 佑亮（府立槻の木高校）

内容 ①昨年度、全国大会に出品された作品の著作権に関する内容をクイズ形式で確認した。
②CUEシートの書き方について確認した。

【午後】○アナウンス、朗読講座

参加 アナウンス講座 25人、朗読講座 47人

講師 田名瀬 さゆり 先生（府立渋谷高校）、坂尾 麗子 先生（府立旭高校）

内容 12月に東京で行われた指導者講習会に参加した先生方による伝達講習。

アナウンスと朗読の基礎講座（模擬審査を含む）を一緒に行った後、アナウンスと朗読に分かれて練習方法などについて意見交流を行った。

○番組β 参加 31人

講師 伴 慎一（府立今宮工科高校）・戸野 佑亮（府立槻の木高校）

内容 ①12月に東京で行われた指導者講習会に参加した先生方による伝達講習。

昨年度、準決勝に進出した作品を見て、模擬審査と意見交流を行った。

②共通に提示された文章をもとに、ドキュメントまたはドラマのストーリープロットを起稿した。その後、意見交流を行った。

※この講座のさいに生徒・先生方に書いていただいたアンケートは、巻末〈資料編1〉にまとめました。

（大阪府立渋谷高等学校 田名瀬さゆり）

<放送コンテスト関係>

第63回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会報告

放送コンテスト委員会

表題の大会の予選を平成28(2016)年6月5日に大阪夕陽丘学園高等学校で、決勝を6月19日に大阪市立青少年センター(ココプラザ)で決勝が行われました。それについて、報告をします。

予選 参加校(エントリー) 55校 381名(作品) [内訳はあとの表1参照]

ここから 23校 84名(作品)が決勝に進出

審査員・運営スタッフ [表2参照]

表2 第63回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 予選 審査員運営スタッフ一覧

	アナウンスAB		朗読CD		朗読EF		朗読GH		
		所属		所属		所属		所属	
審査員	主審	田名瀬	府渋谷	秋本	市南	加藤	府箕面	内野	プール
	サブ	平野	近大附	廣津	女子短	瓦林	東海仰星	松田	府みどり
		池田	府登美丘	荒木	関西創価	坂尾	府旭	奥本	聖母女
		勝見	プール	金丸	府狭山	竹中	相愛	神山	府三島
		清水	宣真	谷口	夕陽学	西川	浪速	島	信愛女
		平田	あべの翔学			長谷	被昇天	真野	府富田林
会場		浅野	東海仰星	池田	梅花	太田	府福井	池田	四天王寺
		桑島	府緑風冠	梅原	府芦間	谷	帝塚山	大塚	金光
		藤澤	開明	蔵野	箕面白	姫路	府西成	久次米	府今宮
		松井	市南	田中	OSM	水谷・古川	府豊島	辻井・山本	府槻の木
		矢口*	金光	中浜*	岸和田市産	八鷹*	あべの翔学	南川	府豊中
		葭谷	府大工専	長峯	市生野工	綿世	箕面学園	森井	府東淀川

※：受付も担当

	ラジオドラマ		テレビドラマ		ラジオドキュメント		テレビドキュメント		
		所属		所属		所属		所属	
審査員	主審	緒方	府桃谷	佐々木	府摂津	久下	府布施	阪本	桃山学院
	著作権	伴	府今宮工	佐分利	府みどり	阪本	桃山学院	久下	府布施
		常盤	常翔	我那覇	府天王寺	阿部	東海仰星	阿部	東海仰星
		浜田	府成美	西尾	箕面学園	大島	府池田	大島	府池田
		藤田	阪南大	三輪	関西大倉	安田	府高槻北	安田	府高槻北
		松尾	府和泉総			山本	浪速	山本	浪速

受付		酒井	府堺西
		中浜	岸和田市産
		矢口	金光
		八鷹	あべの翔学

本部	委員長	吉新	府春日丘
	主担	中井	夕陽学
	サブ	小畑	府金剛
		酒井	府堺西

受付担当

決勝

[アナウンス決勝課題]

うなぎの代わりとして近畿大学の研究グループが開発した「うなぎ味のナマズ」が、航空会社の機内食に採用され、きょう、関西空港で試食会が行われました。

試食会は、関西空港に本社を置く格安航空会社「ピーチ・アビエーション」が開いたもので、夏の機内食メニューに採用された「うなぎ味のナマズごはん」が関係者にお披露目（ひろめ）されました。

これは、資源の減少が懸念されているうなぎの代わりとして近畿大学が開発したなまずを蒲焼きにし、錦糸卵とともにごはんの上に乗せたものです。

試食会には、「うなぎ味のナマズ」を開発した有路昌彦（ありじまさひこ）教授も招かれ、うなぎのような弾力のある食感と味を確認していました。

また、航空会社の担当者は「なまずとは思えないおいしさなので、ぜひ空の旅で意外性を味わってほしい」と話していました。

[朗読決勝課題]

油断して、大きな音で鼻をすすった。泣いていたのはバレていたし、ママがここにきて大きな声を出すものだから、私は言葉を失ってしまった。

「泣いたら、あかん。」

(西加奈子「通天閣」)

審査員・運営スタッフ 表3参照

表3 第63回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 審査員運営スタッフ一覧

		アナウンス・朗読		番組	
		お名前	所属	お名前	所属
審査員	主審	中村	NHK大阪放送局	大北	NHK大阪放送局
		秋本	市立南	岩崎	府立桃谷
		田名瀬	府立渋谷	緒方	府立桃谷
		平野	近大附属	瓦林	東海大付属仰星
		廣津	大阪女子短大	阪本	桃山学院
		松田	府立みどり清朋	佐々木	府立摂津
		安田	放送部インストラクター	浜田	府立成美
本部		お名前	所属	分担	
	委員長	吉新	府立春日丘	統括	
	主担	中井	夕陽丘学園	アナ・朗読	
	サブ	小畑	府立金剛	集計・番組	
		久下	府立布施	番組	
		酒井	府立堺西	受付・アナ・朗読	
		戸野	府立槻の木	受付・アナ・朗読	
		伴	府立今宮工科	番組	
	江寄	府立河南	集計		

決勝の結果は、あとの表4に示します。

表1 第63回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 参加状況一覧

受付 番号	学校名	略称	代表顧問	参加 人数	研究発表会			アナウンス			朗 読			ラジオドキュメ					
					参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表			
1	四天王寺	四天	山田 雅勇	21				7	3	1	13	7	2	5	2				
2	宣真	宣真	清水 明澄	5				5	1										
3	金光大阪	金光	矢口 奈々	4				2			2	1							
4	桃山学院	桃山	阪本 純治	14				1			10	1							
5	府立高槻北	高槻北	安田 正彦	1							1								
6	ブルー学院	ブルー	勝見 昌浩	3				1	1	1	2								
7	府立福井	福井	太田 真希子	3							2								
8	市立南	市立南	秋本 みゆき	16				2	1	1	14	9	2						
9	梅花	梅花	池田 正道	14				1			13	1							
10	府立東淀川	東淀川	森井 佳津子	1							1								
11	スクールオブミュージック	OSM	田中 涼子	6							6	3							
12	帝塚山学院	帝塚山	谷 典子	8							8	1							
13	市立生野工業	生野工	小林 俊介	5							5								
14	府立今宮	今宮	木村 和男	5				1			4								
15	府立芦間	芦間	梅原 聡	10															
16	聖母被昇天学院	被昇天	長谷 智美	10				2	2	1	8	2							
17	府立成美	成美	浜田 佳樹	9	2			5	1					2	1	1			
18	府立堺西	堺西	酒井 学	12	1	1		2			7	1	1						
19	府立洪谷	洪谷	田名瀬 さゆり	1				1	1	1									
20	府立布施	布施	久下 哲也	4				1			1	1							
21	府立豊中	豊中	南川 郁夫	4				3	1	1	1								
22	府立みどり清朋	みどり	松田 朋子	6				1			5								
23	府立三島	三島	神山 達志	3							3								
24	大阪夕陽丘学園	夕陽学	中井 勝久	12	1	1	1	6	1		2	1		1	1	1			
25	府立春日丘	春日丘	吉新 聖二	6				4	1		2								
26	関西創価	創価	荒木 進一	1				1											
27	浪速	浪速	山本 武彦	16				6			5								
28	箕面学園	箕面学	綿世 徳光	3				1			2								
29	府立豊島	豊島	水谷 謙太	2				1			1								
30	信愛女学院	信愛女	島 敏	4							4								
31	府立金剛	金剛	小畑 敦彦	9				2			1								
32	府立富田林	富田林	真野 敏子	2				2											
33	あべの翔学	翔学	八島 誠	3							3								
34	近畿大学附属	近大附	大嶋 直樹	10				2	1		4	1		1	1	1			
35	府立狭山	狭山	金丸 貴裕	3				3	1										
36	府立和泉総合	和泉総	松尾 昌幸	2	1														
37	岸和田市立産業	岸産業	中浜 彩香	1				1											
38	女子短期大学	女子短	廣津 麻美	5							5	2							
39	箕面自由学園	箕面自	蔵野 豊彦	21				4			17	2		2	1	1			
40	府立緑風冠	緑風冠	桑島 佑典	4							4								
41	関西大倉	大倉	三輪 淳司	8				5	1		3	1							
42	相愛	相愛	竹中 泰子	6				2			4	2	1						
43	府立槻の木	槻の木	戸野 佑亮	10				1			7	2							
44	府立西成	西成	姫路 裕敏	5															
45	府立池田	池田	大島 芳明	9															
46	東海大付属仰星	仰星	瓦林 朗	15	1	1	1	9	3		1								
47	阪南大学	阪南大	藤田 大輔	5							5								
48	府立箕面	府箕面	加藤 奈穂	4				2											
49	聖母女学院	聖母女	奥本 信子	2				1			1	1							
50	府立旭	旭	坂尾 麗子	8				1	1		7	4							
51	常翔学園	常翔	常盤 幸利	6							6								
52	開明	開明	藤澤 俊郎	5							5								
53	府立登美丘	登美丘	池田 静	5							5								
54	府大工専	工専	蔵谷 安正	2							2								
55	府立天王寺	天王寺	我那覇 剛	11				2			9	3							
	学校数							5	3	2	35	15	6	43	20	4	5	5	4
	総数			370				6	3	2	91	20	6	211	46	6	11	6	4

TVドキュメ			ラジオドラマ			TVドラマ			合計			受付 番号	学校名	略称	代表顧問
参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表				
			6	2					31	14	3	1	四天王寺	四天	山田 雅勇
									5	1		2	宣真	宣真	清水 明澄
									4	1		3	金光大阪	金光	矢口 奈々
1			2	1					14	2		4	桃山学院	桃山	阪本 純治
									1			5	府立高槻北	高槻北	安田 正彦
									3	1	1	6	プール学院	プール	勝見 昌浩
									2			7	府立福井	福井	太田 真希子
									16	10	3	8	市立南	市立南	秋本 みゆき
									14	1		9	梅花	梅花	池田 正道
									1			10	府立東淀川	東淀川	森井 佳津子
									6	3		11	スクールオブミュージック	OSM	田中 涼子
									8	1		12	帝塚山学院	帝塚山	谷 典子
									5			13	市立生野工業	生野工	小林 俊介
									5			14	府立今宮	今宮	木村 和男
			1						1			15	府立芦間	芦間	梅原 聡
									10	4	1	16	聖母被昇天学院	被昇天	長谷 智美
1	1	1	5	1	1	1	1	1	16	5	3	17	府立成美	成美	浜田 佳樹
			1						11	2	1	18	府立堺西	堺西	酒井 学
									1	1	1	19	府立渋谷	渋谷	田名瀬 さゆり
			1	1	1				3	2	1	20	府立布施	布施	久下 哲也
									4	1	1	21	府立豊中	豊中	南川 郁夫
									6			22	府立みどり清朋	みどり	松田 朋子
									3			23	府立三島	三島	神山 達志
			1			1	1	1	12	5	3	24	大阪夕陽丘学園	夕陽学	中井 勝久
									6	1		25	府立春日丘	春日丘	吉新 聖二
									1			26	関西創価	創 価	荒木 進一
			1						12			27	浪速	浪 速	山本 武彦
									3			28	箕面学園	箕面学	綿世 徳光
									2			29	府立豊島	豊 島	水谷 謙太
									4			30	信愛女学院	信愛女	島 敏
1	1	1	1			1	1		6	2	1	31	府立金剛	金 剛	小畑 敦彦
									2			32	府立富田林	富田林	真野 敏子
									3			33	あべの翔学	翔 学	八畷 誠
			1						8	3	1	34	近畿大学附属	近大附	大嶋 直樹
									3	1		35	府立狭山	狭 山	金丸 貴裕
									1			36	府立和泉総合	和泉総	松尾 昌幸
									1			37	岸和田市立産業	岸産業	中浜 彩香
									5	2		38	女子短期大学	女子短	廣津 麻美
1	1		2			2	2	1	28	6	2	39	箕面自由学園	箕面自	蔵野 豊彦
									4			40	府立緑風冠	緑風冠	桑島 佑典
									8	2		41	関西大倉	大 倉	三輪 淳司
									6	2	1	42	相愛	相 愛	竹中 泰子
1			1			1			11	2		43	府立槻の木	槻の木	戸野 佑亮
			1						1			44	府立西成	西 成	姫路 裕敏
			1						1			45	府立池田	池 田	大島 芳明
1	1	1	1						13	5	2	46	東海大付属仰星	仰 星	瓦林 朗
			1						6			47	阪南大学	阪南大	藤田 大輔
2	2	1							4	2	1	48	府立箕面	府箕面	加藤 奈穂
									2	1		49	聖母女学院	聖母女	奥本 信子
			1			2			11	5		50	府立旭	旭	坂尾 麗子
			2	1					8	1		51	常翔学園	常 翔	常盤 幸利
			2						7			52	開明	開 明	藤澤 俊郎
									5			53	府立登美丘	登美丘	池田 静
									2			54	府大工専	工 専	葭谷 安正
									11	3		55	府立天王寺	天王寺	我那覇 剛
7	5	4	19	5	2	6	4	2	55	31	16		学校数		
8	6	4	32	6	2	8	5	2	367	92	26		総 数		

表4 第63回NHK杯全国高校放送コンテスト 大阪大会決勝 および 結果一覧

アナウンス部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	15	豊中	寺澤 穂乃香	入選
2位	9	被昇天	出原 桜子	準々決勝まで
3位	16	四天	福本 結月	準々決勝まで
4位	12	渋谷	小林 咲希	準々決勝まで
5位	8	ブルー	伊藤 沙織	準々決勝まで
6位	2	市立南	幸田 侑希	準々決勝まで
入選	3	近大附	山本 瑞稀	
入選	6	大倉	楠 翼	
入選	14	四天	宮下 佳奈	

朗読部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	31	四天	高田 唯衣	準々決勝まで
2位	34	市立南	小林 瑞季	入選
3位	30	相愛	松本 夏葵	準々決勝まで
4位	29	四天	大津 佳穂	準々決勝まで
5位	37	市立南	田中 優希菜	準々決勝まで
6位	2	堺西	山岸 春菜	準々決勝まで
入選	4	市立南	辻 彩音	
入選	18	被昇天	竹上 友理佳	
入選	42	天王寺	清水 衿花	
入選	45	四天	大川 薫	

ラジオドキュメント部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	2	箕面自	SNS絶対禁止令	準々決勝まで
2位	6	夕陽学	アオハル	準々決勝まで
3位	3	近大附	先生の歩み	準々決勝まで
4位	4	成美	夢のかよひ路(みち)	準々決勝まで
入選	1	四天	画像投稿の現実(リアル)	
入選	5	四天	かわ異口同音(いくどうおん)	

テレビドキュメント

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	6	仰星	夢が咲く。	準々決勝まで
2位	4	金剛	ピアにサポート!	準々決勝まで
3位	5	府箕面	伝えたいこと	準々決勝まで
4位	3	成美	18歳選挙。	準々決勝まで
入選	1	箕面自	選挙、はじめました	
入選	2	府箕面	チャンスをつかめ	

ラジオドラマ部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	1	布施	ふたりの踏切	準々決勝まで
2位	5	成美	絆	準々決勝まで
3位	2	四天	借りてきた嘘	
入選	3	常翔	文芸部	
入選	4	桃山	ガトーショコラ	
入選	6	四天	トランスバレット	

テレビドラマ

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	4	夕陽学	MISTAKE	準々決勝まで
2位	5	箕面自	恋Sる気持ち	準々決勝まで
3位	1	箕面自	君のことは好きじゃない	
入選	2	成美	お一人様と孤独	
入選	3	金剛	「おいしい」コトバ	

※ 全国大会は1位と2位のみ

※ 全国大会は1位と2位のみ

校内放送研究発表会

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
研究奨励	1	夕陽学	THEリアル実況!	研究奨励
研究奨励	2	仰星	講堂に潜む悪魔を倒せ!	研究奨励
入選	3	堺西	放送部 電撃! Before→After	

総合優秀校

1位	71点	四天天王寺
2位	57点	箕面自由学園
3位	46点	府立成美

今年度の特徴として、①参加校が50校を超えたこと、②朗読のエントリーが200名を超えたこと(昨年230名)、③研究発表に6発表のエントリーがあったことがあげられます。

①について、今回は55校でした。少しずつですが、参加校も増えてきています。昨年も考察として挙げましたが、朗読のエントリーの関係があるかと考えます。100校超えますと、その次の年は全国大会には2倍エントリーできます。2020年に行われる第67回大会の全国大会は関西(兵庫県)での開催です。そこまでに、大阪としても参加者増なども含めて意識していきたいところです。

②について、昨年より次の点を変更して、決勝進出者を昨年の33名から46名に増やしました。

- (1) 決勝での発表順序を、朗読→アナウンスから、アナウンス→朗読に変更する。
- (2) アナウンスの決勝課題を、当日発表から2日前にホームページ上での発表に変更する。
- (3) 朗読の決勝課題を短くする。

今回、朗読の準決勝を行うなどの案を考えましたが、日程などの都合上このようにいたしました。「決勝に46名進出は多いのでは」というご意見もいただきました。他県では、アナウンス・朗読に1校からの参加

者の上限を設けているところもあります。今後時間をかけて検討していきたいと思います。

③について、60回大会から4大会連続で研究発表のエントリーがあり、毎回エントリーが増えております。決勝での審査時間の関係で3発表分しか発表時間が取れないと言うことで、今回は「4発表以上のエントリーがあれば予選を行う」ことにしました。6発表のエントリーがありましたので、予選を行いました。本部を使ってライブ発表で予選を行いました。みなさんの関心も高かったようで、多くのみなさんに見ていただけました。64回大会以降については、予選方法も検討していきたいと思います。

今回も参加校の顧問の先生方に、審査員や会場係としても関わっていただくことを行いました。昨年度も述べましたが全国大会でも「審査・運営に付き添いの顧問の先生方をお願いしたい」ということでしたので、大阪大会でもということで実施しております。次回以降も同じ方向で考えております。また、できるだけ多くの先生方に審査員をお願いできますよう、技術講座でも審査についての時間を取っていきたくて考えております。

ただ、今回は諸事情で当日来られなかった先生もおられ、本部の要員から回ってもらうなどの対応をしたため、アナウンス・朗読の発表前にマニュアルと違う対応をお願いすることになりました。次回はその点も含めて検討していきます。

昨年も申し上げましたが、文化部の活動に対して、顧問の付き添いなど十分な理解を得られていない学校もあるようですが、近年は付き添いの顧問に役割をお願いすることは増えてきておりますので、事情をご理解いただきますようお願いいたします。

また、無理をお願いしたにもかかわらず、顧問の先生方にご協力いただいたおかげで予選がスムーズに進むことができました。ここにお礼申し上げます。

決勝では、NHKの中村アナウンサーと大北プロデューサーに審査員長をお願いしました。お二人ともお忙しい中で長時間の審査をしていただきました。

各部門の昨年度と比較を次の表5に示します。

表5 各部門の昨年度と今年度の参加学校数とエントリー数の比較

部門	昨年度		今年度	
	学校数	エントリー数	学校数	エントリー数
アナウンス	27	76	35	91
朗読	44	222	43	211
ラジオドキュメント	9	13	5	11
テレビドキュメント	7	9	7	8
ラジオドラマ	18	33	19	32
テレビドラマ	7	13	6	8
研究発表	3	4	5	6

ここからもわかるように、番組部門ではラジオドキュメントの参加校が大きく減りました。1校で5作品をエントリーした学校がありましたので、参加作品数は微減でした。5作品にかかるエネルギーが、2作品くらいに集中されれば全国大会でも準決勝に進める作品になるのではという意見も聞かれました。番組は昨年よりも参加数が減っておりますが、一定レベルに達した作品が多かったという印象です。ラジオドラマは相変わらず30作品以上の参加があります。ラジオドラマに偏るのは、声優へのあこがれと「ドラマは脚本を書けばできる」と考えているふしもあるのかなと考えます。生徒たちに聞くと、普段はラジオをほとんど聞かないとか、聞いてもDJなどのトーク番組しか聞いたことがないようです。そのような生徒たちに実際に番組を作らせることは大変です。でもこれは教員向けの指導者講習会の席でも、「番組制作は、アクティブラーニングを実践しているのだ」と意見も出てきます。脚本を作り、編集をして、物作りの過程とその大切さが理解されるでしょう。しかし、全国に進出するためには、きちっとした準備が作品のレベルアップにつながるのかなと考えます。生徒だけでなく私たちも研修していくことが、大阪の課題の一つではないでしょうか。

朗読は11名の参加減に対して、アナウンスは15名の参加増です。昨年はいろいろな機会に、「朗読はただの本読みではない」ことを訴えて参りました。少し認知されたのでしょうか。作品の内容をしっかりと理解していないと表現はできないことなどをさらに訴えていき、アナウンスのさらなる参加増を図っていきたいと考えています。

決勝では、今回も卒業生に司会をお願いしました。浪速高校の三浦早絵さんです。大学では邦楽部に所属し「マイ三味線」を購入したとか。また、いろいろなイベントの司会の依頼もあるそうです。そのような中、担当していただきました。

また、コンテスト卒業生による「トークショー」を大阪市立南高校の吉永鈴さんの進行で行いました。たまたま来ていた卒業生にも舞台上がってもらおうなどしました。卒業生が各校でどのような活動をしているかも含めて、現役生との交流を深めました。次回も、このような交流会を考えていきたいと思えます。

(大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久)

※大阪大会決勝の閉会式でお話いただいた「審査員長講評」は、巻末〈資料編2〉に掲載しています。

第63回 NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会報告

放送コンテスト委員会

7月26日(火)～28日(木)の3日間、代々木のオリンピックセンターとNHKホールを会場に開かれました。上位入賞者・入賞作品と大阪からの出場者・作品の結果は以下の通りです。

【アナウンス部門】

優 勝	兵庫県立小野高等学校	杉本 菜瑠
準優勝	岩手県立盛岡第一高等学校	照井 渚彩
優 秀	大分県立大分上野丘高等学校	河野 里都菜
	熊本県立第一高等学校	成松 海悠

☆寺澤 穂乃香(豊中)：入選

*出原桜子(被昇天)、福本結月(四天)、

小林咲希(渋谷)、伊藤沙織(プール)、幸田侑希(市立南)；準決勝進出ならず

【朗読部門】

優 勝	千葉県立検見川高等学校	鈴木 峻汰
準優勝	神奈川県立新羽高等学校	今西 琴音
優 秀	栃木県立宇都宮女子高等学校	蔭山 明日香
	長崎県立島原高等学校	坂田 美穂

☆小林 瑞季(市立南)：入選

*高田唯衣(四愛)、松本夏葵(相愛)、

大津佳穂(四天)、田中優希菜(市立南)、山岸春菜(堺西)；準決勝進出ならず

【ラジオドキュメント部門】

優 勝	浜松市立高等学校	エール!
準優勝	広島県立五日市高等学校	ピアノが伝えてくれること
優 秀	名古屋市立北高等学校	こころできく～柿崎先生の挑戦～
	桜丘高等学校(三重県)	ママ

*SNS絶対禁止令(箕面自)、アオハル(夕陽学)、

先生の歩み(近大附)、夢のかよひ路(みち)(成美)；準決勝進出ならず

【テレビドキュメント部門】

優 勝 愛知高等学校 私(は)課題(を)写す
準優勝 青森県立青森工業高等学校 不器用な料理人
優 秀 兵庫県立夢野台高等学校 獅子の村に生まれて

(静岡大成高等学校「89年の時が語る僕らへの言つて」は、参加規程違反により優秀賞が取消)

*夢が咲く。(仰星)、ピアにサポート!(金剛)、
伝えたいこと(箕面)、18歳選挙。(成美);準決勝進出ならず

【創作ラジオドラマ部門】

優 勝 福島県立安積黎明高等学校 授業実況
準優勝 鹿児島県立川内高等学校 告白面接
優 秀 兵庫県立東播磨高等学校 ゲス男にはなりたくない
*ふたりの踏切(布施)、絆(成美);準決勝進出ならず

【創作テレビドラマ部門】

優 勝 兵庫県立伊丹北高等学校 大谷花菜は喋らない
準優勝 佐野日本大学中等教育学校 Sapuri
優 秀 松商学園高等学校 灯火
*MI S T A K E(夕陽学)、恋Sる気持ち(箕面自);準決勝進出ならず

** 生徒参加体験記 **

<アナウンス部門 寺澤 穂乃香 (大阪府立豊中高等学校) >

「人に伝えること」これは、アナウンス活動を通じて私が一番苦勞し、学んだことです。

アナウンス原稿は、自分で1から作ります。自分が納得のいく原稿になるまで何度も何度も取材をして、書き直しました。

取材では、自分とは違う視点で物事を捉えている人の意見を聞くことができ、自分の知識や視野が広がりました。また取材を重ねていくうちに、取材相手の方の気持ちや思いを知ることができて、大変興味深く、勉強になりました。

私がアナウンス原稿を作る上で大切にしていたことは、「自分らしさ」です。「自分が伝えたいことはなにか」ということを常に考え、多くの友達や先生にアドバイスをもらいながら自分が納得できる原稿を最後まで作ったので、自分の原稿1つ1つに思い出が詰まっており、愛着があります。そしてその原稿を全国大会という場で読めたことを嬉しく思います。

全国大会では、全国のレベルを肌で感じ、代表の方からたくさん刺激を受けました。本番までは全国代表の方たちとお互いに原稿を読み合って、最後までアナウンス技術を高め合いました。

私は、準決勝に進めた嬉しさ半分、NHKホールの舞台上がれなかった悔しさ半分という形でNHK杯の全国大会を終えましたが、今までで1番「人に伝える」アナウンスができ、そしてなにより楽しむことができたのでよかったです。

どんな時も寄り添い支えてくださった先生や共に切磋琢磨し頑張ってきたアナウンス仲間との思い出は私の大切な宝物です。また、チーム大阪の一員として全国大会に出場できたことを大変嬉しく思います。アナウンス活動を通して、多くの方に巡りあえたこと、たくさんの刺激を受けて学ばせていただいたことは、私にとって大きな財産です。

ありがとうございました。

<アナウンス部門 小林 咲希（大阪府立渋谷高等学校）>

最後の全国大会の目標は、準決勝まで勝ち進むことでした。

自分で取材して1から作ったアナウンス原稿を、よりたくさんの人に伝えたかったからです。

全国大会までの間、プロミネンスや間の取り方など、技術的なことにこだわって練習してきました。しかし、たくさん練習しても、聞き手に「伝わる」アナウンスがなかなかできませんでした。周りの仲間がどんどん上達していく中、上達しない自分が情けなくて悔しい気持ちがこみ上げました。

そんな伸び悩む私に、顧問の先生が、「アナウンスに必要なのは技術だけじゃない。伝えようとする気持ちもしっかり持ちなさい！」と声をかけてくださいました。この言葉を聞いて、『「伝わる」アナウンスに必要なのは、聞き手に伝える気持ちだ。』と気づきました。

それからは、技術だけでなく、聞き手にも意識を向けて練習していきました。

すると、自然と声に表情が出てきて、笑顔で聞いてくれる人が増えてきました。「伝わっている」という手応えを感じた瞬間でした。放送部の仲間だけでなく、学校の先生や友達、家族からの意見も取り入れていって、「伝わるアナウンス」をひたすら追求していきました。

そして、迎えた全国大会では準決勝に上がれませんでした。悔いはありません。自分のアナウンスを全国の人たちに伝えられたことに、とても嬉しさを感じています。

放送部として過ごした3年間には、楽しかったことや辛かったことなど、たくさんの思いで溢れています。私の一生の宝物です。

支えてくださった顧問の先生、お互い高め合ってきた放送部の仲間、いつも優しくご指導してくださった先生方、私に関わってくださった全ての方への感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

<創作テレビドラマ部門 浦嶋 克彰（大阪夕陽丘学園高等学校）>

僕は、第63回NHK杯全国高校放送コンテストの「創作テレビドラマ部門」大阪府1位として、全国大会に出場しました。

去年は「テレビドキュメント部門」に出場して、大阪府では第4位、準々決勝で敗退でしたが、なぜ「テレビドラマ部門」から「創作テレビドラマ部門」に変えたかという、ドキュメントよりドラマの方が好きだったからです。ですが、当時1つ悩んでいることがありました。それは、2年連続全国大会に出場できるかというプレッシャーがあったことです。逆に脚本やカメラアングルなどは不安というのではなく、むしろ自信にあふれていました。そしていろいろ考えた末、「最後の大会やし、結果とか関係なく後悔のない作品を作ろう」と思い、「創作テレビドラマ部門」に出場しました。

制作には6カ月かかりました。その制作途中で一番苦労したことは、夜に撮影をしないといけないシーンがあったことです。本校では春休みは19時までには学校から出て行かないといけないので、当時は18時30分頃に暗くなるので30分しか撮影できませんでした。実際に撮影をしましたが、グダグダで少ししかできなかったです。このままではダメだと思い、あるアイデアを思いつきました。偶然にも夜に撮影するところは室内。だから、先生にお願いして暗幕を借り、日光が入ってくるところをそれで隠しました。すると部屋は真っ暗になり、昼からでも撮影ができることになりました。そして無事に撮影は成功し、作品を完成させることができました。

ですが、全国大会では準々決勝で敗退という残念な結果となりました。

他校の作品と見比べると、脚本やカメラアングル、演技力などレベルがもっと高かったです。自分では後悔のない作品を作ったつもりでしたが、「脚本をもっと練るべきだった。」「あのシーンのカメラアングルはこうすればよかった。」などと思ってしまう自分が恥ずかしく思いました。

僕は3年生なので最後の大会になりましたが、来年、後輩たちが僕たちの代よりも良い成績を残せることを期待しています。

芸文祭 報告

(「第37回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門」報告)

大阪府立摂津高等学校 佐々木 孝夫

第37回大阪府高等学校芸術文化祭(以後芸文祭と省略)は、平成29年1月28日の開会行事部門を皮切りに、1月下旬～2月初旬を中心に、東大阪サーティーホールやドーンセンターなどを会場として開催されました。

放送文化部門はそれに先駆け、平成28年11月6日(日)ドーンセンターで開催しました。午前中に映像部門とアナウンス部門を開催しました。参加者が年々増加したため、アナウンス部門を2会場に分けて審査をおこないません。午後からはアナウンス、朗読、番組制作の3部門で、「高校生のための放送技術講座(Ⅱ)」(以後技術講座Ⅱと省略)を開催しました。また、それと平行して、顧問会議を午後で開催しました。以下に放送文化部門、映像部門を中心に詳細を記します。

- 1 日 時 平成28年11月6日(日) 10:00～16:00
9:45～10:00 午前の部 受付
10:00～10:15 午前の部開会式
10:20～12:00 映像部門発表(5階セミナー室)
アナウンス部門発表(5階視聴覚スタジオ・特別会議室)
13:00～13:30 午後の部 受付
13:30～15:30 午後の部開会式・放送技術講座
アナウンス部門(5階視聴覚スタジオ)
朗読部門(5階特別会議室) 番組制作部門(5階セミナー室)
15:30～16:00 映像・アナウンス結果発表、閉会式

2 会 場 大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)

3 映像部門参加作品

- (1) 堺市立堺高等学校定時制の課程 「First Stage」
制作 AVA CLUB(視聴覚演劇部) 16分20秒
- (2) 箕面自由学園高等学校 「君と一緒に歩きたい」
制作 箕面自由学園放送部 5分24秒
- (3) 箕面自由学園高等学校 「He loves Yuzu！」
制作 箕面自由学園放送部 8分17秒
- (4) 大阪府立堺西高等学校 「紙対応」
制作 堺西高校放送部 10分00秒

※アナウンス部門や放送技術講座の詳細は、別途「技術講座Ⅱ」で詳細を報告しております。

今年度の芸文祭、放送文化部門は例年通り11月上旬の開催されました。今年度の映像部門の参加作品は4本でした。作品数はやや少なかったものの、作品の質はいずれも高いものでした。

今年度の優秀賞として、堺市立堺高校定時制の過程、AVA CLUBの「First Stage」と、箕面自由学園放送部の「君と一緒に歩きたい」が選ばれました。また、箕面自由学園放送部の「He loves Yuzu !」、府立堺西高校放送部の「紙対応」も奨励賞となりました。

優秀賞の市立堺高校の「First Stage」は、存在感のなさに悩む主人公が、ダンスを通じて自己表現をし成長していく作品でした。同じく箕面自由学園高校の「君と一緒に歩きたい」は、親の再婚により新しくできた妹との心の交流を描いた、心温まる作品でした。

奨励賞の箕面自由学園高校の「He loves Yuzu !」は、あこがれの先輩のために苦手な食べ物を克服するけなげな女子高生を描いた作品です。堺西高校の「紙対応」は、学校で配布されるプリントをめくり、配布する教師側の思いと受け取る生徒側の思いを取材したドキュメント作品でした。

最後になりましたが、この芸文祭放送文化部門の運営にご協力いただいた役員の先生方、作品を出品していただいた各参加校の生徒及び顧問の先生方、当日見に来られた見学者の方々に心よりお礼を申し上げます。

全総文報告

（「第40回全国高等学校総合文化祭（広島大会）放送部門」報告）

大阪府立摂高等学校 佐々木 孝夫

本年度、第40回全国高等学校総合文化祭放送部門は、平成28年8月2日（火）・3日（水）の2日間、広島県の平和公園内にある広島国際会議場を舞台に、アナウンス・朗読・オーディオピクチャー・ビデオメッセージの4部門が開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加しました。

(1)アナウンス部門（大阪府より3名）

大阪府立渋谷高等学校	小林 咲希（2年）
大阪府立箕面高等学校	朝賀しお莉（1年）
大阪府立豊中高等学校	寺澤徳乃香（2年）

(2)朗読部門（大阪府より3名）

大阪市立南高等学校	田中優希菜（2年）
大阪市立南高等学校	美馬佐也香（2年）
浪速高等学校	児玉 玲奈（1年）

(3)オーディオピクチャー部門（大阪府より1作品）

大阪夕陽丘学園高等学校

(4)ビデオメッセージ部門（大阪府より2作品）

大阪府立金剛高等学校	大阪府立堺西高等学校
------------	------------

近総文報告

(「第36回近畿高等学校総合文化祭(兵庫大会)放送部門」報告)

大阪府立摂津高等学校 佐々木 孝夫

第36回近畿高等学校総合文化祭(以後近総文と省略)兵庫大会放送部門は、平成28年11月23日(水祝)、兵庫県の神戸国際会議場を舞台として開催されました。今年度は1日の日程で開催されました。

以下に開催日時や場所、大阪代表の参加者、参加校を記します。

第36回近畿高等学校総合文化祭 兵庫大会

1. 日程 平成28年11月23日(水) 9:00~16:30
2. 場所 神戸国際会議場 〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1
3. 大阪府代表出場者(出場校)
 - (1)アナウンス部門 (大阪府より3名)

宣真高等学校	高橋 ちひろ(2年)
大阪夕陽丘学園高等学校	山村 佳奈江(1年)
四天王寺高等学校	中谷 有里(2年)
 - (2)朗読部門 (大阪府より3名)

大阪市立南高等学校	市坪 美羽(2年)
四天王寺高等学校	大川 董(2年)
パール学院高等学校	稲田 緋奈(2年)
 - (3)ビデオメッセージ部門 (大阪府より2作品)

大阪府立金剛高等学校	大阪夕陽丘学園高等学校
------------	-------------
 - (4)DJ部門 (大阪より1作品)

四天王寺高等学校

なお、来年度の近総文は、大阪府が開催府県になります。平成29年11月19日(日)、大阪商業大学のインターナショナルホール蒼天を会場に開催されます。また、それに伴い第38回の芸文祭は、近総文の併催の形になります。来年度生徒の実行委員や教員の実行委員のご協力をお願いいたします。来年度の近総文の開催予定を下に期しておきます。詳細については来年度4月以降、決定次第お知らせしていきます。

第37回近畿高等学校総合文化祭 大阪大会

1. 日程 平成29年11月19日(日) 9:00~16:00
2. 場所 大阪商業大学 インターナショナルホール蒼天
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

<資料編 1-1>

高校生のための放送技術講座（Ⅲ）アンケートより

【1】アナウンス講座 生徒のアンケート（平野先生と北本さんの講座を受けて）

- ・自分でお話を聞いてその日に原稿を起こすという経験をしたことがなかったのでも新鮮でした。
- ・アナウンサーだった平野先生とアナウンサーになられる北本先輩の、人に何かを伝えるという考え方の違いがどちらも興味深かったです。
- ・私は全然原稿が書けなくて行動できなかつたけど、話を聞いているだけで勉強になることが多かった。
- ・技術講座で原稿を書いたことがなかったから新鮮でよかったです。
- ・緊張しない方法やアナウンサー時代のエピソードが、すごくためになりました。
- ・自分の原稿にまとまりがなくて悔しかった。
- ・いろんな話を聞けてためになった。
- ・北本さんのような考え方ができるようになりたいと思った。
- ・面白かった。カレー食べます、カレー苦手ですがそう思いました。
- ・今原稿読んだら、もっと違う気持ちで（伝えよう、みたいな）読めるかもって聞いた後には思いました。そういう風に思わせられるのは凄いいし、そんな力が欲しいと思った。
- ・トーク内容から喋り方伝え方など先生方の発することの全てがためになりました。
- ・アナウンス原稿の作成は初めてで何からすれば良いかがわかりませんでした。核になる部分の抽出がしやすかったので何とか書けました。面白いお話も聞けてよかったです。
- ・アナウンサーをしていた平野先生とアナウンサーになられる北本先輩の話は、実際に放送を職にしている方の話なので、とても勉強になりました。アナウンスだけでなく人生にも使えるようなことを教えていただいて、とても勉強になりました。
- ・やはりアナウンサーとなる人はちゃんとしているんだなと思いました。平野先生の話聞いて、悩んでいたのがとっても楽になりました。これからは「逃げてもいい、倒れてもいい、挫折してもいい。」っていうのを心の奥に置いて、少し力を抜いていきます。
- ・アナウンサーになるための努力やいろんな人生の方向などが聞けて、本当によかったです。
- ・将来に向けての具体的なイメージや何をすればいいかなどが明確に知れてよかったです。
- ・アナウンサーを目指すために何をすればいいのか、体験談など役に立つ情報をいろいろ聞けてよかったです。
- ・やっぱり放送は夢があると思ってモチベーションが上がりました。伝えることを大切にしようと思いました。
- ・アナウンス原稿を書くのが苦手な私にとって、目から鱗が落ちるような講座でした。今後アナウンス原稿を書くにしても後輩たちに指導するにしても、とても参考になりました。
- ・とてもためになる講座でした。放送部のことをもっと深く知れたかなと思います。私自身放送関係の仕事を目指しているので、その苦勞やすべきことなどいろいろ学ばせてもらいました。
- ・話すことの楽しさや普段の部活動に生かせることなどがわかりました。実際に放送を仕事とする方々の貴重なお話が聞けて、とても良い時間を過ごすことができました。放送のために何をしてきたのか、またこれからどうしていきたいかも聞けてよかったです。

- ・私は、朗読に力を入れていたい方なので、正直この講座は受けなくてもいいと考えていました。しかし、受けてみると知っておくべきだと思う内容もありました。原稿を書くのもめったにしないので、やる時間があってよかったです。
- ・アナウンス原稿を書いたことがなかったのですが、今日書く練習ができてよかったです。
- ・非常に良い経験になった。本職の経験者による指導は質が良かった。
- ・アナウンスの技術をもっとあげようと思った。アナウンサーの仕事に携わる方の生の声を聞いたのが初めてだったので新鮮だったし学ぶことも多かったです。校内放送だからできることをもっと見つけて活動に活かしていきたいと思いました。放送局関連の仕事にもともと興味があったので、貴重な生の声を聞くことができてよかったです。
- ・アドバイスしてくださる方がたくさんいてよかったです。トークショーを聞いて原稿書くというスタイルはとても勉強になりました。でも、もっとたくさん生徒さんの発表を聞きたかったです。
- ・アナウンスの取材の難しさ楽しさを改めて知ることができました。原稿作りの大切さなども身に染みてわかりました。ありがとうございました。
- ・実際に原稿を書かなければいけなくてとても大変でした。でもトークショーを聞いて実際に書いているうちにお二人の伝えたいことなどのキーワードが分かったような気がして、今後のクラブ活動が充実したものになる気がします。トークショーの内容も役に立つことばかりだったので、聞いていてとても参考になりました。平野先生の「逃げても良い」という言葉が心に残りました。すごく貴重な時間で、原稿のアドバイスもいただくことができてよかったですと思います。自分から何かをするということをしてみたいと思いました。
- ・放送部としての話や原稿を書くためにいろんな話をしてくれて、聞いているだけでもすごく楽しかったです。
- ・体験談など普段では聞けないような話が聞けて、とてもためになりました。自分ひとりでは考えつかないような視点からの意見などが勉強になり、とにかく学んだ講座でした。
- ・仕事としてのアナウンスを知れてよかった。北本先生から伝えるということ学び、そういった伝え方表現の仕方を学びました。文章の構成など学びたいことが学べました。
- ・先生や先輩の話はとても面白くてためになる内容が多くて、自分たちもそんな感じになりたいなと思いました。アナウンス原稿を短時間で作ることの難しさを改めて実感しました。語彙力や文章力を心底上げたいと思える講座になりました。良い経験になりました。
- ・価値観が変わるとても良い講座でした。お昼の放送をもっと大切にしようと感じました。
- ・内容が面白く勉強になりました。原稿を作るのが苦手なので頑張っていこうと思います。お二人の話聞いて、アナウンサーになる前にたくさん挫折を体験しているのに諦めずに頑張っている姿に感動しました。
- ・課題は少しハードでしたが、お二人の話がとても良く含蓄のある内容で面白かったです。アナウンス台本を作る際の注意など、自分が知らなかったことを知ることができてよかった。校内ニュースの原稿の書き方や話し方などを再確認できました。大切な事は伝えるというのは理解しているのですが、伝えたいことが多すぎていつもまとまりません。今日の講座を役立てることができたらいいなと思います。
- ・とても面白かったです。今までの講座は順番がまわって来ずひたすら待つだけといった感じだったので

ですが、今日の講座はととてもためになったし今日一日で原稿を書く力がすごくなったと思います。

- ・今まで体験したことのない形式の講座だったので新鮮だった。実践的だった。実際に高校時代に放送部でそれからアナウンサーになったというのは凄いなと思いました。最後に北本さんがおっしゃっていたように放送部は「伝える部活」なので、私たちの学校も何か新しいことができたらいいなと思いました。
- ・自分の学校の放送部が保守的だと言うことに気づきました。北本先輩のように面白いこと伝えたいことをもっと自分の中で掘り下げて伝えるために何か行動すべきだと思いました。いつの間にか自分も保守的になっていてインプットばかりしていました。もっとアウトプットしたいです。アナウンサーの実際の実況を聞いてよかったです。伝えるということがとても大切なんだというのが知れてよかったです。
- ・私は、自分の意見を伝えることだけでなく文章を書くことも苦手なので、アナウンスの原稿を書くのはとても難しかったですが、平野先生と北本さんの話を聞いたことを思い出して、書くことが少し楽しいなと感じました。
- ・二人とも声がとてもかっこよかった。トークショーもとても面白くて聞き入ってしまった。楽しかった。
- ・平野先生は今までの人生を分かりやすく語ってくれました。北本先輩は高校時代に経験し自分がしてきたことを語ってくれました。ネタを探してみようと思いました。
- ・とてもためになりました。私もアナウンスをやっていて原稿書くことに苦手意識がありました。ですが今日の講座で少し克服出来た気がします。
- ・新しい講座の仕方で新鮮でした。難しかったけど力になりました。
- ・とてもためになりました。3時間とても濃い時間を過ごせました。
- ・二人の話は、どこか違っていてどこか同じようで不思議な感じだと思いました。
- ・アナウンサーをしていた人の話なんて滅多に聞けるものじゃないから嬉しかった。実際こんな感じに喋っているんだなとかいろいろ思った。
- ・すごく大変でしたが、充実した身になる技術講座でした。アナウンス原稿を書くことに対して苦手意識があったのですが今回の技術講座で少し面白いなと思うことができました。今日、講座に参加できて本当に良かったです。
- ・平野先生の挫折や北本先輩の高校時代の話は色々考える部分もあり、個人的にととてもためになりました。
- ・いま自分の部活では誰かに質問をしてそのことを原稿にするということをしています。貴重な経験をさせていただいてすごく勉強になりました。「一人で何かをするのではなくみんなで何かをする」という言葉が一番私に足りていないものだと感じました。
- ・ニュースなどでみんなに伝えないといけない事はきちんと伝えられるように話す（伝える）。まずみんなに伝えるには情報がある、また伝える際は短くまとめて大事なことだけを伝えるということが改めてわかった。話す際は間をあけること。話すときは聞き手がどういう風に聞いているのか想像したりラジオで相手が目の前にいると想像して話す。聞いて良かったなと思えるような話し方もいい。
- ・言葉が途切れることがなくて凄いなと思いました。
- ・お二人の詳しいお話が聞いて講座に来て本当に良かったと思えた。アナウンスする際のコツなどの技

術面の話も聞いてよかった。

- ・放送部としてもっと伝えるということを目指してこれから頑張ろうと思えるようになりました。今までの講座の中で一番楽しくためになりました。
- ・トークショーなどを聞いて自分で原稿を書くことできなかったのが難しかったです。ですが先生方や生徒さんが優しく丁寧にアドバイスをくださったのでわかりやすくなりました。
- ・最初に北本先輩が原稿読み上げてくださったのが読むスピードや間の参考になったのでとても勉強になりました。トークショーの前に見た平野先生の映像では実況や報道など様々な場面で様々な伝え方を使っているのがかっこいいと思いました。トークショーでは、お二人のお話に興味を惹かれ笑わされるというとても面白く感じられる内容だったので、つい引き込まれてしまいました。
- ・朗読しかやったことがなかったので新鮮でした。難しいのではなく楽しいと思いました。
- ・アナウンサーという職業の大変さ、楽しさ、また伝えることの楽しさを知ることができました。
- ・たくさんのエピソードを聞き、放送部の活動またそれ以外にも参考になりました。
- ・全員が同じものを聞いてそれぞれに原稿を作ることが面白かったです。実際に発表した人に平野先生や北本さんが講評を行ったのも良かったと思います。
- ・とても良いお話で、正直原稿は放って帰りたいと思いました。でも原稿を書いていて北本さんや平野先生の凄さを表現できない自分の文章力に苛立ちを感じました。なので、もっと上手になりたいと思える上手な講座なのではないかと思いました。実際にアナウンスをされている方々の話を聞くことが少ないので、とても良い経験ができたと思います。また、アナウンス原稿も実際に書いて他の人に見てもらえて良かったです。

【2】先生方のご回答

1. <午前中のアナウンス2年生大会>

- ・プレNコン予選としての位置づけをアナウンスして参加者が多い方がよかった。30名では少しさみしい。
- ・色々な生徒の原稿を聞くことは大変興味深く、テーマの探し方のヒントをもらいました（本校の生徒はなかなか原稿が書けなかった）。ただ、全体的にもっと原稿を練ってもっと読む練習をする必要のある人が多かったように思う。
- ・原稿づくりのつたなさが目立った気がします。
- ・読み手の上手・下手よりも原稿の作成や取材するネタのチョイスで首を傾げるものもありました。自戒も含めてより指導に力を入れていきたいと思います。
- ・原稿の作り方や言葉の選び方など、生徒のアナウンスを聞くことが出来て一番勉強になりました。
- ・日頃、校内ニュースをなかなか作りたがらない生徒たちへの良いきっかけづくりとなりました。
- ・今の時期のせいなのか、本当に上手だと思われる生徒が昨年より少ないのかなと思われた。
- ・原稿を書くのに苦労している人が多いなと感じました。

2. <新アクセント辞典>

- ・「アクセント観」という説明は注目すべきで実践的だったと考える。
- ・書籍などの紹介もしていただき、アクセントについて改めて考え、とても参考・勉強になりました。

- ・資料配布と資料の拡大投影（プロジェクター）のコラボが効果的では？
- ・いただいたレジュメ自体がとても丁寧で勉強になりました。
- ・短い時間でポイントのみに絞ってお話いただき、大変わかりやすかったです。
- ・アクセント辞典が手元にない生徒が多かったので、コピーを使って説明した方がよいと思います。
- ・分かりやすく話していただき、ありがとうございました。
- ・新しい表記に未だ慣れきれません。
- ・文の中での単語の扱い方まで指定してくれるのは本当に助かると感じた。
- ・さっそく買うことにしました。

3. <朗読抽出箇所>

- ・具体的なアドバイスでよかった。
- ・どういう所を選んだらよいのか、ヒントをいただけたと思います。
- ・資料配布と資料の拡大投影（プロジェクター）のコラボが効果的では？
- ・ご指摘のとおりで勉強になるとともに、朗読部門にエントリーすることの難しさを痛感いたしました。
- ・分かりやすく話していただき、ありがとうございました。
- ・具体的なアドバイスが役に立ちそうです。
- ・参考になった。
- ・よくわかりました。

4. <午後のアナウンス講座>

- ・もう少し人数を絞って（各校代表1名が参加出来るくらいか？）LAN教室を使い、原稿作成練習の時間をとった方がいいかもしれません。
- ・たくさんの情報の中でどれか一つに絞ることの難しさを実感するとともに、お二人の魅力あるお人柄・お話に引き込まれ、このことをこの前にいない家族に伝えたいと感じました。これがアナウンス原稿を作る原動力なのだと気づきました。とても良い企画だったと思います。
- ・トークショーの中での貴重なお話を聞けたことに加え、生徒一人一人が自分で原稿を起こすという作業時間が有意義だったと思う。2年生大会に出なかった生徒も活動できる場があって良かったです。
- ・ワークショップは生徒の力に直結します。元アナウンサー、アナウンサーの卵の先輩がイニシアティブをとることで、自然と生徒も熱が入ったと思います。
- ・中身の濃いトークショーと、全員に原稿を提出させることで速効性もあるとりくみで、とてもためになる講座だったと思います。
- ・基礎からの原稿作成、とても勉強になりました。ただ、その場で原稿を作成させるのは生徒にとっては難しいように感じます。
- ・臨場感があって良かったです。みんなで同じトークショーを聞き、他の生徒の原稿を聞くというのも勉強になりました。
- ・少し長すぎて間延びしている生徒がいました。
- ・生徒が主体的に活動できる大変素晴らしい講座でした。自校の弱いところも見え、生徒にとって大変有意義なものになったと思います。また、お話いただいた平野先生と北本君には本当に感謝いたします。貴重なお話をたくさんしていただき、ありがとうございました。
- ・実践的でとても有益だったと思います。

- ・生徒たちが自主的に活動する姿が印象的でした。
- ・参加型の方が、生徒が生き活きしていて良いと思った。次回も何らかの形で参加させた方が良いと思う。
- ・原稿の書き方・着眼点など、生のインタビューと取材と、直接にじっくり時間をかけてとり組めて、とてもためになりました。平野先生と北本君のキャラクターも、とても魅力的でした。
- ・日曜日はお疲れさまでした。なかなか面白い講座でした。ただ、アナウンス原稿はこう書くのだ、みたいな指導はできなかったなと思います。いきなり書けと言われても困ってしまうのは仕方ないこと。書き方、手順などを教えた方が良かったかもしれません。一定の型にはめれば、最低限度アナウンス原稿の体裁はとれると思いますので。また何かの機会に指導・伝達していただければと思います。

5. <その他、お気づきの点があればお書き下さい>

- ・優秀賞は得点の高い順に表彰する方が受賞者どうし刺激があると感じました。
- ・あたたかい雰囲気の中、講座を受けることが出来ました。ありがとうございました。

6. <係では200人以上入る施設を探しています。放送技術講座で使わせていただけるような広い部屋をお持ちの学校があればお知らせください。よろしくお願いします。>

・大阪学芸高校

200人ちょうどくらいのホールあり。吹奏楽部・コーラス部との兼ね合いはありますが、半年・数ヶ月前からわかっていればおさえることは可能と思います。JR長居駅徒歩7分です。

- ・現在体育館しかないのが難しい(浪速)
- ・食堂なら200人ぎりぎり入ります(金剛)
- ・200人は難しい

【3】 附録 <あなたの放送部はどんな活動をしているの？> (生徒回答)

- 四天王寺高校：お昼の音楽番組（ミュージックジャム）、舞台発表合唱コンクール等のアナウンス、体育祭の実況、朝拝、大会の練習、原稿読む練習、大会前はマイクを通して部員の前で原稿を読む練習
- 東海大仰星高校：お昼の放送、学校行事の手伝いなど、映像制作
- 槻の木高校：お昼の放送、メビウスラジオの取材編集、クラブシアター槻の木の取材文章化、ラジオドラマ・テレビドキュメントの作成、校内放送で流すラジオ番組の作成、各クラブへのインタビュー、Nコンに向けての作品制作、校内行事の司会、クラブ通信、先生の方々にインタビューをしてお昼に流す、クラブにインタビューを行い、ホームページに掲載する
- 大阪市立南高校：朗読劇、交流会、発声練習サイレン長音短音ダゾザドドゾゾダバラピリプルペレポロマラミリムルメレモロ、課題本を読む、Nコンのための原稿読み練習、朗読等の聞き合い、アナウンスや大会等の司会
- プール学院高校：お昼の放送リクエスト曲の紹介、大会の練習、他校との交流練習会
- 相愛高等学校：お昼の放送、文化祭の発表に向け発声、作品作り
- 旭高校：発声練習、読み練習、お昼の放送、原稿作り、行事の用意
- 箕面自由学園高校：お昼の放送、ドラマドキュメントの制作、大会に向けてコンペやミーティングを重ね、より良い作品を作れるように活動しています。大会に向けて台本を書いたり映像を取ったりし

ています。編集撮影は時間のある限りとことんこだわっています。

- 天王寺高校：お昼の放送（月水金）
- 聖母被昇天学院高校：発声練習、アナウンス原稿の練習、Nコンに向けて各自練習、中学生の指導
- 宣真高校：発声練習、インタビュー、お昼の放送、実際にNコンで読まれたものを原稿にして読んでいく練習
- 成美高校：お昼の放送および原稿作り、発声練習、NHK杯をはじめとする多くの大会コンテストの準備、作品作り
- 帝塚山学院高校：行事ごとの司会、文化系クラブの発表会の司会、校内放送を企画中です
- 金剛高校：お昼の放送（放課後の天気、次の日の食堂の日替わりメニュー、教員からの連絡等）
ドラマやドキュメントの制作、学校行事の司会・撮影・音響、地域の障がい者スポーツ大会の司会進行、学校紹介用映像の作成、学校説明会のアナウンス、大会に向けての番組制作 ほかにもいろいろ
- 大阪夕陽丘学園高等学校：朝昼の放送、他校の作品を見る、他の部活の司会、学校行事や地域のイベント等の司会・音響・機材、番組制作、バスケットボール大会の開会式・閉会式等の司会
- 浪速高校：発声滑舌練習、一斉参拝中や朝礼時にカメラで撮る、マイクの調整、編集、課題朗読、原稿のネタ探し、練習用台本の作成
- 渋谷高校：・校内：お昼の放送（お知らせ、自校ニュースか地域の話題1～3つ、今日の天気予報）、取材・原稿作成、体育祭・文化祭・新入生歓迎会・学校説明会等進行放送担当
・校外：11月・12月・1月に行われる地元の音楽祭の司会、8月・10月・11月に行われる地元の祭りの司会手伝い、猪名川花火大会司会、バレーボールインターハイの式典司会・競技放送、第98回全国高等学校野球選手権大阪大会式典司会

<資料編1-2>

高校生のための放送技術講座（Ⅳ）アンケートより

【1】朗読発表大会 生徒のアンケート

【生徒アンケートの結果】

- ・読みながら別の事を考えていたら噛みました。それが悲しかったです。
- ・なかなか緊張しましたが、楽しめました。
- ・普段アナウンスをしているので朗読の雰囲気がよくわかってよかったです。
皆さん上手でとても勉強になりました。
- ・番組の（講座）にも参加したかったです。
- ・普段よりもタイムが10秒も増えたのに、同輩には読むのがはやかったと言われたので、練習の時と本番の時の音声を聞いて分析したいです。
- ・緊張しました…。発声場所があって安心できてよかったです。
- ・前回の朗読大会とは違い会場が教室だったので、あまり緊張しなかったです。
色々な人の読みを聞けて勉強になりました。
- ・私の学校は女子校なので、男性の朗読が聞いたのが新鮮でした。
- ・Nコン予選方式の発表、とても良かったです。6月の本番に向けていい練習になりました。

- ・緊張しましたが今までの力を発揮できました。
- ・もっと場数を踏んで挑戦していきたいです。
- ・もっとがんばろうと思えた。
- ・抽出部分を吟味する時間がなかったため、NHK放送コンテストにはベストなものを出せるようにしたいです。
- ・初めてのため緊張をしてあまり上手にできなかった。次からは少しでも慣れていたいと思った。
- ・1年生が多かったですが、皆さん練習を重ねているようで、自分は練習時間が足りていないと感じました。
- ・いろんな学校の人の朗読がきけてよかったです。
- ・色々な人の朗読が聞けて勉強になった。
- ・かなりレベルが高かったと思います。
- ・現状が知れて良かったです。
- ・緊張はしましたが、嘯まずに発表できました。賞状をもらえないのはくやしいですが、とても良い経験になりました。
- ・初めて古典に挑みました。右も左もわからないので、結構悩みました。(私の高校の)先生によっておっしゃることもバラバラなので仕方ないことではあるのですが、いつか少しでも講座でふれていただけると有難いです。(もちろん自分でもできる限り情報を集めます。)あと、古典の模範も何かオススメがあれば教えていただければ幸いです。
- ・初めての朗読で緊張して練習の時よりも早口になったのが心残り
- ・初めての朗読大会だったのでとても緊張しました。
マイクの高さもう少し上げられたらいいかなと思いました！
- ・すごく情景が思い浮かぶ読み方をしている人がいて、上には上がいるのだとよく分かりました。
- ・朗読というような発表になってなかったと思うのもっと考えていきたいと思いました。
- ・みんなの発表をきけて、Nコンに向けての意欲が高まった。
- ・スムーズに進んで良かったと思う。
- ・楽しかったです！ 他の人もきいて勉強になりました
- ・静かな環境で、集中して読むことができました

【2】朗読発表大会 教員アンケート

- ・採点に不慣れで申し訳ありませんでした。なかなか難しいです。
- ・予想以上に上手な子が多かった。
- ・この時期として、全体のレベルは高くないと思うが、自分の選んだ作品と声が合っているか、抽出部分が適切か、これから大いに悩むところだと実感しました。例年より朗読への取り組みが早くなりました。大阪のレベルがアップするものと確信しています。
委員会のみなさま、お疲れ様です。
- ・想像以上に練習できている生徒が多かったです。

- ・今後の技術指導の参考になりました。他校のこの時期の取り組みが知れてよかったです。
- ・計時の係は、審査に入らなくても良かったかと存じます。
(7人審査員がいたので、6審査+1計時。原稿チェックの係は?)
- ・計時と原稿checkと審査のトリプルは大変でした。コメントを書いている時間が…。
- ・審査で計時も兼ねたが、原稿がないので終了していないのに誤ってストップウォッチの終了のボタンを押してしまった。計時担当にも原稿がほしい。
- ・スムーズな進行で良かったと思います。
- ・審査で全員分聞いたことと、全体的な講評をその場で諸先生方から聞いて、勉強になった。

【3】番組α生徒アンケート

- ・(番組審査の)先生たちが小さなことまで気にしていてびっくりしました。
- ・初めてのグループワークだったので緊張しました。
- ・最初は違う高校の子ときちんと会話できるのか不安になっていましたが、普通に話せてよかったです。
- ・最初は何も話せないだろうなと思っていましたが、話が合ったりしたので、楽しく講座を聞くことができました。
- ・自分の知らない著作権がたくさんあるんだと感じたのでいい勉強になりました。
- ・まさか著作権がこんなにも細かなところにまであったとは思いませんでした。
学校内の撮影ならどこで撮っても大丈夫だろうと思っていたが、これからは気を付けたい。
- ・午前、午後ともに他校の生徒との交流があり新鮮だった。
著作権管理に関してより一層の注意を払うべきだと考えた。
CUEシートの書き方ではBGMの使い分けを学べた。
- ・私は1年生でCUEシートの書き方や権利のことが分からなかったけど、CUEシートや著作権のことが学べてためになる講座でした。
- ・クイズを通じて著作権がよくわかった。
- ・著作権にかなりの大きな網があるとは思いませんでした。大変勉強になりました。
- ・著作権のことは知っているつもりでしたが、箱ティッシュにも著作権があると聞き驚きました。
もう少し勉強しなければならぬと改めて思いました。
- ・グループの交流がとてものしかったです
- ・堅くなく楽しく学ぶことができたと思います
- ・著作権についてよく分かった。こんなものまで!?!と思うものもあったので、すごく勉強になりました。

【3】アナウンス・朗読講座アンケート

<アナウンス・生徒>

- ・普段連絡をとることのない学校さんと交流できて良かったです。
- ・交流の時間がかなり短かったのでちょっと残念でした～

- ・色んな学校の方と交流できて普段の練習方法とかを知ることができてよかったです。
 - ・イントネーションや間などとても大事だということを知った。
 - ・他校の練習方法が知れたり、どんなことをやっているかの交流ができたのでよかったです。
 - ・楽しく参加できました。
 - ・グループの交流がよかったです。
 - ・私は普段は朗読ですが、アナウンスに行ってみてとてもためになったし、基礎学習になりました。
 - ・もう少し時間があれば深い話ができただけかなと思います。
 - ・時間が短かったです。
 - ・準決勝に残った先輩方のアナウンスを3種類聞いて模擬審査をして、そのあとに意見交流できたのが良かったです。
 - ・講習を聞くほど、自分の聞く耳が変わっていくような気がしました。
 - ・アナウンス、朗読のテクニックがとても分かりました。
- 朗読での選び方や緩急、アナウンスでの緩急のやり方が学べて良かったです。

<朗読・生徒>

- ・他の高校との交流は良い刺激になりました。
 - ・他校の生徒と情報交換ができて良かったです。
 - ・上手な人たちの朗読を聞いて、自分も上手になりたいと思った。
 - ・勉強になりましたが、アナウンスと朗読を分けてほしかったです。
 - ・交流は短かったですが、すごくいい経験になりました。
 - ・他校さんとの交流会がたのしかったです！ また設けていただきたいです。
 - ・ひたすら聞くだけだとあまり面白くなかった。長く感じたので、もっとまとめてほしいです。
 - ・無駄が多い気がしました。もっと、要約してほしいです。
 - ・講座の時間が少し長く感じたので、次は要点がまとまった講座を受けたいと思った。
 - ・色々と学ばせられることが多かったです。
- これを機にさらなる技術向上を目指してがんばっていこうと思います。
- ・他の放送部の方たちの話を聞いてとても楽しかったですし勉強になりました。
 - ・プロの着眼点に対しての理解が深まった。
 - ・アナウンスも朗読も「伝える」大事さは変わらないんだと分かった。
 - ・講座すこし長いなと感じました。
- アナウンスと朗読、同時進行で部屋を分けて行い、時間を短縮してほしいです。
- ・他校と練習方法や本の選び方が全く異なったので興味深い話がきけてよかったです。
- 交流会すごくたのしかったです。
- ・上手な方々の朗読を聞くことができ、すごくよかったです。
- もっと自分もこうした方がいいというのが分かったので、すごくよかったです。
- ・1年生の生徒が多く、話したことがなかった子とも交流をとることができた。
 - ・勉強になりました。
 - ・セリフと地など、自分に大切なことを伝えてもらえてよかったです。
 - ・今後役に立てていこうと思います。

・タメになりました。

<教員・朗読>

・審査基準がある程度わかった

【4】番組β生徒アンケート

- ・今までに受けたことのない講座で、とても面白かったです。ありがとうございました。
- ・今までに触れたことのないことだったので勉強になりましたし、他校の生徒との考えの共有により今までよりも物事を観察する視点を広くできたのではないかと思います。
- ・他校の方々と番組について話し合うことがまずないのでとても良かった。
私自身番組にはほとんど縁のない人間なので楽しかったです。
- ・いろいろな意見を出しあえたのでよかったです。
- ・今までアナ朗ばかりに携わってきたので、今回の番組講座では得られるものがとても多かったです。特に審査員の視点に立って見た後で、後半、自分で構成を考えていくという流れはとても分かりやすく面白かったです。
- ・今までの番組講座とは違って、グループワーク中心だったので、緊張してあまり話せなかったが、後半にはしっかり参加できたので楽しかったです。参加型の講座ならではの発見がありました。
- ・始めて番組の講座に参加したのですが、ディスカッションの機会を作っていただけたので、他の人の意見が聞けただけでなく、自分でも思ってもいなかった意見が出せたりして、とても楽しかったです。
- ・前半でした審査をするのは人それぞれ感じ方が違うけどコンテストの点数が思っていた以上に僅差だったのに驚きました。
- ・自分の頭では考えつかなかったことをたくさん得ることができた。
- ・テレビドラマを作ったことがないのですが、見ていて楽しかったのでやってみたいと思いました。
グループで話し合うことで、人の意見をたくさん聞けたので幅が広がったような気がします。
- ・他校さんとの交流とても楽しかったですし、参考になる、ためになることをたくさん聞けました。
ありがとうございました。
- ・アナウンスから番組を作るのがとても困難でした。
- ・楽しかった。
- ・自分で採点をするのは難しく、自分の見方がずれているのかななどの確認ができてよかったです。
また、こういった講座を受けてみたいと思いました。
- ・Nコンの作品を批評するのは新鮮だった。
- ・見たどの作品もやっぱりクオリティが高く、カメラワークなども参考になりました。
話し合ってみて、本当に様々な意見があって、視野が広がった気がします。
- ・先生の審査の意見から「なるほど～」ってことが多かったので、自分の作品では気をつけます。
アナウンスを作ってから番組を作るのもありだなと思いました。
- ・いろいろな他校の方とお話できる機会がめったにないので、とても充実した時間を過ごせました。
私の学校では映像は作らないので、とても新鮮でした。

- ・自分たちで点数をつけるのは良かった。話しやすい班で意見を言いやすかった。
- ・普段できない他校さんと交流できてよかった！たのしかった。
- ・大会に出た作品を3つも見せて頂いて、とても参考になった。
グループで出した意見などを、実際に活かしていきたい。
- ・番組の審査とか初めてだったけど新鮮だった。後半のやつ、相談中にこんなところに目をつける人だとか、そういう考えがあったとか新しい発見があった。
- ・よかったと思います。人のめぐりあわせにもよりますが、今回のふり分けられた班は積極的な人が多かったので楽しくすすめられました。
- ・違う学校の人達と話すことができ、楽しかったです。非常に貴重な経験になりました。

【3】その他のアンケート

- ・他校生との意見交換の時間がもう少しほしいです。
 - ・もっと交流練習会をふやしてほしい。
 - ・もう少し話し合う時間がほしい。
 - ・このような大会、講座を開いていただきありがとうございます。とても勉強になりました。
 - ・アナウンサーの方に読みを聞いてほしかった。
 - ・8人ずつより少人数の方が意見交換しやすい（はじめの方）
 - ・「新しい事に挑む」という北本先輩の教えを受けて、旭sound（校内放送）で音楽番組をはじめる or コーナーを増やす企画をしています！
 - ・まだ、アナウンスと朗読のどちらをやったらいいのかわかりません。
 - ・貴重な体験ができました！ ありがとうございます！
 - ・映像に興味をもつことができました。機会があれば、一度チャレンジしてみたいです。
 - ・良い経験ができたので良かったです。
 - ・ラジオ番組や研究発表の講座もあつたらいいなと思っています。
 - ・今までにしたことのない体験ができた。この体験をいかしてこれからの作品を作っていきたいと思いました。
 - ・他校さんと交流できる機会があつて、おもしろかったし学べることも多かった。
 - ・もっと、色々な動画を見て先生方の講評がほしいです。参加型も楽しかったです。
 - ・今回のNコンに向けてテレドラ、テレドキュを作りたいと思いました。
- このような講義に参加することが、大変貴重な経験だと思いました。

<資料編2>

2016年コンテスト大阪大会決勝 審査委員長講評

中村宏アナウンサー（NHK大阪） アナウンス・朗読部門

お疲れ様でした。結果は既にでておまして、賞状の準備が進んでおります。いくつか気になることがありましたアナウンスと朗読ですけれども、一つは審査員のみなさん口をそろえて言っていたことは、とにかく速いということです。みなさん速い。「ウナギの代わりとして……」（中村アナが早口で原稿を読む）えーすらすら読めても、聞いた人が意味をとれないですね、速いと。ですからアナウンスの基本はどちらかというとゆっくり話す。で、ゆっくり話す方が難しいんです。それは、息をコントロールしないと長く息が続きません。書いた文章は読むことを前提に書いていないんですね。特に小説などは。小説は読むことを前提に書いていないので、一つの文章が長い。それからニュースも比較的短い文中にいくつも情報を入れたい。あるいは主語が一回にしたいです。何回も主語が出てくると時間が長くなるので、主語が一回にするとそれに形容詞が付いて、しかも述語の間にいろんなことが出てくるので結局長くなるんですね。そういう長い文章をゆっくり読むためには、息をコントロールしないとイケない。つまり「おはようございます」って一回で、3秒で息を使い果たしてしまうと、長い文章読めないでしょ。だからゆっくり読む方が難しいんです。だから早口言葉いいですよ、練習してください。でもね早口言葉を使う、世の中出たからあるいは今の部活で早口言葉を使うチャンスってあります？ないですよ。だから私がみなさんにお勧めしているのは、早口言葉をゆっくりと、「この竹垣に竹立てかけたのは竹立てかけたから竹立てかけた」これを一息で言うわけですが、切れ目なく。こういう練習をした方がむしろいいんです。速くなってしまうのは、息が短いということと、早くすませたいということと、あとコンクールなので時間に納めないとイケないという意識が働いてどうしても走っていくんですね。だからゆっくり読むことと、それから間が上手に使えることです。間って言うのは短い間と長い間ってのがあって、それからゆっくり読んでいくのがベースなんだけど、たたみ掛けていくってところもあるわけね。地の文はゆっくり読んだとしても、セリフはここは速いってあるじゃないですか。だからそういう言ってみればですよ、損得でいうとテクニックを見せられるような聞かせられるような部分を選ぶのが朗読の場合だといいわけです。適度にセリフがある、セリフがあまり多いと地の部分をどうやって読むのかなって思うんですね。だから6割7割ぐらいが地の文で、3割ぐらいがセリフが入ってくる、しかも二人、せめて二人ぐらいのセリフが入ってくる。で、どこか大きい間を取るような段落の切れ目があるとか、それからたたみ掛けるような部分があるとか、そういう部分を読んでテクニックを見せつけると意外と点は取れるんじゃないかなと思いますね。

あとみなさん非常にぶつ切りが多い。これはだから意味のまとまりを捉えてないから、ブツブツ切ってしまうと意味が伝わらないことになりますよね。で、それは自然なイントネーションにならないということになりますね。例えば「ウナギの代わりとして一近畿大学の研究グループが一開発したウナギ味のナマズがー」というような、ぶつ切りになると今言ったように、助詞「てにをは」フレーズの語尾の部分が強くなって伸びるんですよ。だからこれを意味のまとまりを捉えて読もうとすると、「ウナギの代わりとして近畿大学の研究グループが開発したウナギ味のナマズが」となるんですね。だからそういうふうに読めてないと、あまりいい点は取れないということになります。

それから朗読の課題について、安田先生が是非皆さんに言いたいことがあると言うので、安田先生に直接言っていたきたいと思います。

えーお待たせいたしました **NHK** オタクの安田です。ニュースをお伝えできません。講評をお伝えいたします。私、今回5月の講座で朗読を担当しませんでした。アナウンスの担当でしたから朗読の皆さんとは今日初めて出会ったんですけど。「読点」というのは色々な意味合いで使われていることがあって、中には本当に作者の魂だ、作者の意図が思いがその読点、句点、或いは改行、その他の息づかいに現れているのでできるだけそれを尊重して読みましょうって言うことを強く主張する、あるいは美学としている人もたくさんいます。林真理子さんという作家が昔怒ったんだそうです、**NHK** のアナウンサーを。「何であたしが書いた読点無視して読むのよ！」って。中村さんが怒ったわけではないと思いますけどね。とはいえ、明らかに意味の切れ目と違うところに点が打ってあって、「でも点が打ってあるから止まりました〜」ということになると、間違った情報として届くことがあります。例えば「油断して大きな音で鼻をすすった」というのは、「油断しました、その後大きな音で鼻をすすりました」という意味でしょうか。「シュッ(鼻をすする)」ってやつちゃったんでしょ。油断してああ失敗したっていうことですね。ここに大きなポーズやブレスは入らないはずですね。ついでにその次の「ここにきて」という言葉の使い方ですね。ここにきてとは「この場所に来ました」という意味だと思った人〜？ さすがに、(いません) ね。にもかかわらずママがここに来て、ママがここに来てってなんか歌のタイトルみたいですね。「ママがここに来て大きな声をあげたので」この場に至って、このタイミングでというような意味です。だから場所の話じゃないですよ。なので、皆さん油断して大きなブレスをとった。油断して大きなブレスをとったということです。で、今回、二週間の猶予期間があったので本をじっくり読み込むこともできたのでそのくらいは気づくかなと思っていましたけど難しかったです。全国大会に選ばれた人の中にそういう恥ずかしい人がいなければいいなと思っています。ということです。お邪魔しました、中村さんありがとうございました。(拍手)

審査員長は私ですが審査員で一番熱いのが安田先生です。あ、いまこれ「ハッ(マイクを吹く音)」と なったでしょ。これみんなさあ、今日多かったよねこれね。「ハッ」というの。つまりマイクに近すぎるんだよね。マイクには色々な特性があって、**NHK** のマイクは割となりにくいんですけど、直線的な指向性を持ったマイクとかそれは少し距離があっても直線的な指向性があるって離れていても大丈夫なマイクと、それからまあいい指向性もったマイクがあって、これは多分まあいい指向性があるんですよ。だから横からしゃべってもある程度ね、この距離を保っていれば大丈夫というね、だからこうやってしゃべっても大丈夫です。横になってしゃべっても。私ラジオ深夜便大体こんな少し斜めになっています。ていうのは原稿が前にあるから。だからこういうマイクだったらおそらく正面にならなくても少し横を向いてもほら大丈夫でしょ。これくらいまで大丈夫でしょ。ただこのマイクは距離が離れるとダメでしょ。もうダメでしょ。だからある程度距離は必要ですね。で、真正面になると息が「フッ」と入りますね。だからちょっと横にすると入りにくいですね。だから一番最初の方は気の毒ですけど二人目くらいの方は前の人を見ていて、あ、これはちょっと息が入るなとかね、ちょっと離れた方がいいなとか、いやあのマイクはこういうまあいいマイクだから、こういうまあいいマイクは大体そういう指向性を持ってますね。こういうまあいい指向性を持ってますね。だからちょっと外してこうやって持とうとかです。だからマイクのことを是非皆さん研究して下さい。

ちょっと逸れましたけれども、あとこれも安田さんが言っていたんですが、亡くなっている加地君の朗読ですけれども、「加地」って呼びかける方がいらっしやっただけですけれども、そういうことあるかなって思って、それからね、ここの部分ではないですけど何度も出てきている人物、みなさんは一部分読むわけですよ。なのに何度も出てきている人物の名前を初めて出てきたかのごとく大きい声で読む人いるじゃないですか、立ててね。「中村は」(強く)ってそんな必要なくて「中村は」でいいわけですよ。もう何度もでてきてる一部分を読むわけだから。だから全体を読めって安田さんが言ってるのはそういうことです。自ずとわかりますよね。それから「試食会(ししょくかい)」って言うね、アクセントの人多かったですね。これアナウンス部門ですけれども、「試食会(ししょく\かい)」ですね。それからついでに言いますと、みなさん一次会、二次会とか言うでしょ。アクセント辞典はね、一次会(いちじ\かい)、二次会(にじ\かい)。新しいアクセント辞典ではまだ調べてないですけど。

今度アクセント辞典変わりました。みなさん「熊(くま\)」って言う？ 動物の最近人里へ出てくるやつ。本当はね、ちょっと前まで「くま\」だったんです。「くま\が出た」なんですけど、「く\ま」って言う人が無視できないくらい増えた、世の中に。40歳ぐらいまでの人が「く\ま」って言う世の中になってしまっただけで無視できなくなって、「く\ま」というアクセントも認められました。それから「わかめ」。これねアクセント辞典ではついこないだまで「わか\め」、若い芽だから「わか\め」だったんだけど、今度ね「わ\かめ」が認められました。新しいアクセント辞典、こないだ出たばかりなんで買ってください。

あとね古典。古典はやっぱ難しいですよ。なぜか、普段使わない言葉づかい、普段使わない言いまわし。だから舌に馴染ませるのにそもそも時間がかかって、その上で意味を自分でとって表現することになるんで、倍ぐらい時間がかかります。今日、お二人読んでましたけれども、上手に読んでいたと思います、すらすらとね。だからもう一歩、自分のものにした上で表現するところまでぜひ行ってほしいなと思いました。それから、やっぱり変化をつけるためにはですね、スピードと間なんです。ゆっくりがベースなんですけど、全編ゆっくりっていうのは飽きちゃいますね。だから、どこかは話すように読むんです。話すように読むっていうことは、ある部分は速くなったりするんですね。そういうのを計算してスピードとそれから間。間には大小があるんです。短い間とか、ここはたっぶり間をとるとか。AさんのセリフとBさんのセリフの間っていうのは、例えばたっぶり間をとったほうがいいのかと思うじゃないですか。でも意外とそうじゃないかもしれないですよ。落語なんか聞いているとそうでしょう。落語ですと二人登場人物が出てくると、「なんとかだね」「そうかい」みたいにしゃべってるんですね。だからAさんとBさんのつながりの部分は、落語家さんは息をしないんですよ。で、Aさんがしゃべっている途中で息をする、Bさんがしゃべっている途中で息をするんですけど、AさんからBさんになるところは息をしないんですよ。落語は勉強になるからぜひ聞いてください。

ということで、いくつか感じたことを順不同になってしまいましたがお話ししました。私もだんだん歳を取ってきたんで、最後に一言だけ言わしていただきたいんですけど、みなさんね、今世界中でいろんなことが起きていて、食べ物に困っている人もいるし、戦争でね悲劇の真ただ中にいる人たちもいるんですけど、みなさんはこの平和な日本でね、不景気とはいえ豊かな日本でこうやってクラブ活動できているわけですよ。今ここにいて今日参加ができて、普段友達とクラブ活動ができるっていうことにね、ぜひ感謝してほしい。それで今日でもいいですし明日でもいいですから、お世話になっている担当の先生にありがとうございますとのお礼を言ってください。そして家に帰ったら、保護者の方にね、

今日は行ってきたどうだったと報告してください。そしてみんな友達にも感謝してください。私も歳を取ったので、ちょっと一言だけ言わせてもらいました。お疲れ様でした。

大北晶子 チーフ・プロデューサー（NHK大阪） 番組部門

今日はみなさんの力作を聞かせていただきありがとうございました。私の正直な感想なんですけれど、ディレクターをして20年以上になりますが、みなさんかなりレベルが高かったなあと思っています。番組作りのカメラのカットとかインタビューとか、あとどういう形で番組を作ろうかっていう構成も含めてですね、正直私が入局1年目のときにみなさんのレベルに到達したのを作っていたかなっていうぐらい作品としての完成度は高かったなあと思っています。とても見応えがあるものもたくさんありまして、正直点数は拮抗してまして、みなさん全員が全国大会に行ってもおかしくないぐらい点数も拮抗してましたので、もし全国に行けなかったとしてもそれはとても僅差だったってことを覚えておいていただければなあと思っています。本当に素晴らしいものが多かったです。

今日はみなさんの力作を聞かせていただきありがとうございました。私の正直な感想なんですけれど、ディレクターをして20年以上になりますが、みなさんかなりレベルが高かったなあと思っています。番組作りのカメラのカットとかインタビューとか、あとどういう形で番組を作ろうかっていう構成も含めてですね、正直私が入局1年目のときにみなさんのレベルに到達したのを作っていたかなっていうぐらい作品としての完成度は高かったなあと思っています。とても見応えがあるものもたくさんありまして、正直点数は拮抗してまして、みなさん全員が全国大会に行ってもおかしくないぐらい点数も拮抗してましたので、もし全国に行けなかったとしてもそれはとても僅差だったってことを覚えておいていただければなあと思っています。本当に素晴らしいものが多かったです。

いろいろ見させてもらった中で、みなさん未来のディレクター、プロデューサー、放送業界を目指されるということで、僭越ながら私が先輩として申し上げるなら、こういうことをされるとグンと伸びるというコツがありますよということを4点ほど挙げさせていただきたいなと思って言わせていただきます。

一つはですね、「誰のために番組を作っているのか」ということを頭に入れて作っていただけますでしょうか。番組は自分たちのために作るんじゃないんです。もちろんそれはアナウンサーさんもそうでして、自分たちの喜びのために番組を作ったりセリフをはいたりとかするわけじゃないんですね。それは単なる自己満足でしかなくて、自分たちの楽しいものを作るのはそれはそれでそういうのはあるんですけども、放送というものは人に見てもらってなんぼっていうところなんですね。人に何かを伝えたい、人に何かを知ってほしい、こういうことなんですよってお伝えしたいっていうことを一番始めに頭に置いていただくと、そこから逆算して、じゃあこういう表現だとわかりにくいよとか、ちょっとしゃべりかた速すぎたからここは間があるよとか、そういう工夫ができていきやすくなるんですね。なので誰のためっていうのは、みなさん見ていただいている人のためになんです。なのでそこを一番始めに大事にしてください。私も番組作っていると、自分がいろいろやって自分が楽しくなって、自分のためにとは言いませんが、自分が気持ちよように番組を編集したりとか構成を作ったりし始めるんですけど、そうじゃないんです。見ている人のためということなので、そのために簡単なやり方例えば、例えば身近な方、例えばうちのお父さんとかうちのお母さんに見せるんだったらどういう表現

するかな、例えばおばあちゃんに見て欲しい、この番組を、そしたらおばあちゃんやったらどういうふうにしたらわかりやすいと思ってくれるかなというのはすごく大事なあとと思って今日は見させてもらっていました。

二つ目は、「何を伝えたいか」っていうことなんですよ。みなさん今回、選挙権のことですか若い起業家の方とか、あとドラマでも友情とかをテーマにとかいろいろされてたんですけども、それはテーマ選びではすごくいいと思っているんですが、要はだからそれを通して何を伝えたいかっていうことですよ。例えば選挙の、18歳で選挙が始まりますよっていうことを通じて、私たちが今不安だってことを伝えたいのか、それとも何かを知りたいと思ってみんなが模索してるよっていう状況を伝えたいのか。恋愛でも恋愛を通して、恋愛のダークな部分を見せたいのかとかそういうことを。もちろんバラエティでもそうして、笑いに包んで例えば恋ってこういうコミカルな面があるよねっていう人間のその何ていうのかな業みたいなものを見せたいのか、何かその部分ですよ。何を伝えたいのかっていう部分はもう少し考えてもらってもいいなと思って見させてもらっていました。

三つ目はですね、もうすこし自分の等身大の悩みを活かしてもらったらいいなあとと思っています。例えば18歳の選挙権のことでも難しいことを言う必要はありませんし、要はなんでそんな世の中の仕組みになってんの？なんでそうやってみんな思ってるの？なんでなん？っていうのは、みなさんの歳でもありますし、私の歳でもありますので、その「なんでなん？」っていう部分をもう少し素直に。難しいこと言ってほしいんじゃないんです、なぜなら見ている人はそのことをあんまり知らないからです。だからそんな難しいことを言われても全然わからないんです。なので、なぜか？なぜこういうこと起こってるの？こういうことが起こっている背景は何なの？ということを知りやすく自分たちの素直な疑問の中で作っていかれるのが大事だと思っています。それはテクニックがうまくなるということも大事ですが、そういう部分ですね、自分たちの等身大の悩みを大事にするっていうことは大事だと思います。一つ例を挙げさせてもらいますと、今回障害者に関することを言ったチームもありまして、とてもチャレンジングで私はすごく素晴らしいなと思っているんですが、一方でもう少し自分たちの悩みの等身大で、もっと普通の質問をしてもよかったのかなとか、例えば動けないということはどうだったのか、そういうことを入り口にどんどん、入り口をやわらかくしながらドンと中身の言いたいことに入っていくというのはすごく大事だと思うので、みなさんそんなに難しく考えなくていいんです番組は。何を伝えたいのかとか何がわからなくて取材してるのかということのを大事にしてください、ドラマも同じですそれは、難しいことを言う必要はないと思います。

あと四つ目なんですが、これだけはテクニックに近いんですけども、やっぱりオープニングといいますか番組の冒頭部分はキャッチーにさせていただいて言うかですね。要は番組っていうのは頭から見ていくんですよ。なので頭見ておもしろないと思ったらチャンネル変えられるといいますかもうみんな飽きてしまうんですね。なので頭の部分を例えば好奇心を引っ張っていくような構成にしたり、例えばクイズ形式にして疑問を残すとか。頭の部分を面白くするっていうことを少し努力されると、また頭の部分はわかりやすくてですね、何を言いたいためにこの番組っていうか放送のプログラムを作っているのかっていうのがわかるといいかなと思いましたので、特にそれはドキュメントではそういうところがあると思うんですが、大事にしていきたいなと思っています。

でも話が戻りますが、本当にみなさんテクニックとしてはすごくいいものを持っていらっしゃるんで、それを上げるには難しい小理屈とかではなく自分の中にあるそういう「何を伝えたいのかな」というハ

ートの部分を大事にさせていただくと、さらに伸びると思います。未来、ディレクターやプロデューサー、アナウンサーさんや放送業界に携われる方として、将来放送業界で例えば私どものNHKの中でとかお会いできることを楽しみにしています。いろいろ見させてもらった中で、みなさん未来のディレクター、プロデューサー、放送業界を目指されるということで、僭越ながら私が先輩として申し上げるなら、こういうことをされるとグンと伸びるというかコツがありますよということを4点ほど挙げさせていただきたいなと思って言わせていただきます。

一つはですね、「誰のために番組を作っているのか」ということを頭に入れて作っていただけますでしょうか。番組は自分たちのために作るんじゃないんです。もちろんそれはアナウンサーさんもそうでして、自分たちの喜びのために番組を作ったりセリフをはいたりとかするわけじゃないんですね。それは単なる自己満足でしかなくて、自分たちの楽しいものを作るのはそれはそれでそういうのはあるんですけども、放送というものは人に見てもらってなんぼっていうところなんですね。人に何かを伝えたい、人に何かを知ってほしい、こういうことなんですよってお伝えしたいっていうことを一番始めに頭に置いていただくと、そこから逆算して、じゃあこういう表現だとわかりにくいよとか、ちょっとしゃべりかた速すぎたからここは間があるよとか、そういう工夫ができていきやすくなるんですよ。なので誰のためっていうのは、みなさん見ていただいている人のためになんてですね。なのでそこを一番始めに大事にさせていただきたい。私も番組作っていると、自分がいろいろやって自分が楽しくなって、自分のためにとはいませんが、自分が気持ちよように番組を編集したりとか構成を作ったりし始めるんですけど、そうじゃないんです。見ている人のためということなので、そのために簡単なやり方言えば、例えば身近な方、例えばうちのお父さんとかうちのお母さんに見せるんだったらどういふ表現するか、例えばおばあちゃんに見て欲しい、この番組を、そしたらおばあちゃんやったらどういふうにしたらわかりやすいと思ってくれるかなというのはずごく大事なあとと思って今日は見させてもらっていました。

二つ目は、「何を伝えたいか」ってということなんですよ。みなさん今回、選挙権のことですとか若い起業家の方とか、あとドラマでも友情とかをテーマにとかいろいろされてたんですけども、それはテーマ選びではすごくいいと思っているんですが、要はだからそれを通して何を伝えたいかっていうことですよ。例えば選挙の、18歳で選挙が始まりますよっていうことを通じて、私たちが今不安だってことを伝えたいのか、それとも何かを知りたいと思ってみんなが模索してるよっていう状況を伝えたいのか。恋愛でも恋愛を通して、恋愛のダークな部分を見せたいのかとかそういうことを。もちろんバラエティでもそうでして、笑いに包んで例えば恋ってこういうコミカルな面があるよねって人間のその何ていうのかな業みたいなものを見せたいのか、何かその部分ですよ。何を伝えたいのかっていう部分はもう少し考えてもらってもいいなと思って見させてもらっていました。

三つ目はですね、もうすこし自分の等身大の悩みを活かしてもらったらいいなあとと思っています。例えば18歳の選挙権のことでも難しいことを言う必要はありませんし、要はなんでそんな世の中の仕組みになってんの？なんでそうやってみんな思ってるの？なんでなん？ってというのは、みなさんの歳でもありますし、私の歳でもありますので、その「なんでなん？」っていう部分をもう少し素直に。難しいこと言ってほしいんじゃないんです、なぜなら見ている人はそのことをあんまり知らないからです。だからそんな難しいことを言われても全然わからないんです。なので、なぜか？なぜこういうこと起こってるの？こういうことが起こっている背景は何なの？ということを知りやすく自分たちの素直な疑問の

中で作っていかれるのが大事だと思っています。それはテクニックがうまくなるということも大事ですが、そういう部分ですね、自分たちの等身大の悩みを大事にするっていうことは大事だと思います。一つ例を挙げさせてもらいますと、今回障害者に関することを言っていたチームもありまして、とてもチャレンジャブルで私はすごく素晴らしいなと思っているんですが、一方でもう少し自分たちの悩みの等身大で、もっと普通の質問をしてもよかったのかなとか、例えば動けないということはどうだったのかなとか、そういうことを入り口にどんどん、入り口をやわらかくしながらドンと中身の言いたいことに入っていくというのはすごく大事だと思うので、みなさんそんなに難しく考えなくていいんです番組は。何を伝えたいのかとか何がわからなくて取材をしてるのかということのを大事にさせていただいて、ドラマも同じですそれは、難しいことを言う必要はないと思います。

あと四つ目なんですが、これだけはテクニックに近いんですけども、やっぱりオープニングといいますか番組の冒頭部分はキャッチーにさせていただいて言うかですね。要は番組っていうのは頭から見ていくんですよ。なので頭見ておもしろないと思ったらチャンネル変えられるといいますかもうみんな飽きてしまうんですね。なので頭の部分を例えば好奇心を引っ張っていくような構成にしたり、例えばクイズ形式にして疑問を残すとか。頭の部分を面白くするっていうことを少し努力されると、また頭の部分はわかりやすくてですね、何を言いたいためにこの番組っていうか放送のプログラムを作っているのかっていうのがわかるといいかなと思いましたので、特にそれはドキュメントではそういうところがあると思うんですが、大事にさせていただきたいなと思っています。

でも話が戻りますが、本当にみなさんテクニックとしてはすごくいいものを持っていらっしゃるんで、それを上げるには難しい小理屈とかではなく自分の中にあるそういう「何を伝えたいのかな」というハートの部分を大事にさせていただくと、さらに伸びると思います。未来、ディレクターやプロデューサー、アナウンサーさんや放送業界に携われる方として、将来放送業界で例えば私どものNHKの中とかお会いできることを楽しみにしています。

大阪府高等学校視聴覚教育研究会「大阪高視研」公式ホームページのご案内

<http://www.koushiken.jp>

NHK杯全国高校放送コンテストの要項・申込み、及び結果・講評

高校生のための放送技術講座の要項・申込み、及び結果・講評

優秀作品のストリーミング

リンク集 (Nコン公式、NHKクリエイティブライブラリ、JASRACなど)

質問メール用フォーム など

公式ブログ「大阪はひとつ！放送ぶろぐ」も開設しました。

結果速報や諸連絡などの発信を行っています。

<http://blog1.koushiken.jp>

発行日	平成29年3月31日
発行所	大阪府高等学校視聴覚教育研究会 事務局：大阪市生野区勝山南3-1-4 大阪府立桃谷高等学校内（電話）06-6712-0371
発行責任者	岩崎判二（大阪府立桃谷高等学校校長）
編集委員	久下哲也（大阪府立布施高等学校）